

2014 年度（平成 26 年度）
学生による授業評価アンケート
実施報告書

福山大学 大学教育センター
教育開発部門

目次

はじめに	1
1. アンケート調査の目的	2
2. アンケート調査の概要	2
3. 調査結果	11
(1) アンケート調査実施状況について	11
(2) 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）	11
① 授業の進め方について	11
② 話し方について	12
③ 授業の計画性について	13
④ 授業時間について	14
⑤ 講義の工夫について	14
⑥ 質問への誠意について	15
⑦ 難易度の適切性について	16
⑧ 講義の満足度について	16
(3) 調査結果の内容（学生の自己点検）	17
① 授業の準備について	17
② 集中力について	18
③ 出席状況について	19
④ 知識の深まりについて	19
⑤ 受講時の工夫について	20
⑥ 質問への積極性について	21
⑦ 意欲の高まりについて	22
⑧ 学習の成果について	22
4. アンケート結果に対する学科報告書	23
5. 学生の学修時間に関する調査結果	47
6. 授業担当教員の報告書	49

はじめに

福山大学では「地域社会の中核となる職業人の育成」という教育目標の達成に向け、大学全体として、また、それぞれの学部・学科において様々な教育改革に取り組んでいるところである。大学全体としては「福山大学教育システム」を構築し、教育目標を設定して、初年次教育やキャリア教育の整備など全学共通教育の改革に取り組んでいる。また、学部・学科では、それぞれの中目標とカリキュラムとの関係を示すカリキュラム・マップを作成し、学修の道筋を示している。これらは学生が学びやすい教育環境を提供するという観点から重要な取組であるが、教育の基本は日々の講義、演習、実験である。日常の教育の場が学生にとって知的な魅力を感じる場であることが必要条件である。教育の場が不快を感じる場であっては成果を上げることは不可能であり、学生が学びたいことを学べる場でなければ学修意欲を駆り立てることはできない。「学生による授業評価アンケート」は自己評価委員会が平成 16 年度に本学で初めて実施して以来、本学のすべての教員が少なくとも 1 年に 1 度、学生による授業評価を受けている。平成 23 年度より大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施している。授業改善に資する貴重な情報として活用し、教育改善に向けた研鑽を積んでいる。今年度、大学教育センターでは各学部の委員と大学教育センターに所属する委員から構成される教育開発部門を設けて担当部門とし、「学生による授業評価アンケート」を実施した。このアンケート調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

平成 27 年 3 月 31 日

大学教育センター
センター長 鶴田泰人
教育開発部門
部門長 平 伸二

1. アンケート調査の目的

学生が主体的に学ぶ授業の展開を目指して、学生が授業をどのように受講し、授業に期待していることを教員が理解し、各教員の授業改善に資するために本アンケートを実施する。また、全学的な教育改革の成果を検討する貴重な資料とする。さらに、学生が自己評価し、自身の学習姿勢を点検して改善に役立てるために本アンケート調査を実施する。

2. アンケート調査の概要

(1) 実施期間

アンケート調査結果を学生にフィードバックする期間を確保するため、それぞれ第 10 回目～11 回目の授業時間の一部を利用して実施した。

前期：平成 26 年 6 月 12 日（木）～25 日（水）

後期：平成 26 年 12 月 1 日（月）～12 月 13 日（土）

(2) 調査科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）1 人当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針とした。調査を希望する教員については、2 科目以上について調査対象とすることにした。全学で、前期 174 科目（受講者数延べ 9,471 名）、後期 102 科目（受講者数延べ 6,647 名）、通年で 276 科目（受講者数延べ 16,118 名）を対象に調査を行った。調査科目を p.3～p.8 に示した。

(3) アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した（p.9 の調査用紙を参照）。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

(4) 調査結果の集計

アンケート調査の集計作業を外部（リョービシステムズ株）に委託した。集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には 5、強く否定する回答には 1）を乗じ全回答数で除すことで、5 段階評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、最高値は 5.0、最低値は 1.0、標準値は 3.0 となる。なお、質問 3 のみ「シラバスを読んでいない」という選択肢を増やし 6 段階評価とした。

(5) 学生へのフィードバック方法

前期および後期授業のそれぞれ最終回（15 回目）および試験期間中にアンケート調査結果とその対応を学生にフィードバックした。方法は学科に一任した。

(6) アンケート実施後の教員による報告書提出

授業担当教員に集計結果返却後、1 ヶ月以内に報告書（p.10 の報告書書式を参照）を学科長に提出し、学科長は学科教員の報告書を取りまとめて大学教育センター長に提出した。

(7) アンケート実施後の学科による総括

年度末に前期および後期の調査結果を踏まえて学科単位で総括し、学科長から大学教育センター長に提出した。

平成26年度（前期） 授業評価アンケート実施科目一覧

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済	経済	金丸 純二	教授	スポーツ理論 I	1240040F	火	1	82
経済	経済	早川 達二	教授	マクロ経済学C	1221110F	月・火	4	105
経済	経済	上迫 明	准教授	企業法 I	1220940F	水	2	165
経済	経済	入谷 純	教授	経済政策	1220290 F	木	2	15
経済	経済	相原 正道	准教授	スポーツ経営学	1240550F	木	3	35
経済	経済	向井 昇	非常勤	生活設計・税基礎 I	1230332F	月	1	61
経済	経済	宮本 賢作	非常勤	学校保健論	1240060F	月	2	29
経済	経済	亀岡 章	非常勤	不動産・相続応用 I	1230610F	火	4	34
経済	経済	佐藤 健次	非常勤	リスク管理・金融基礎 I	1230550F	水	4	28
経済	経済	田邊 一洋	非常勤	スポーツとメディア I	1240840F	木	3	16
経済	経済	幸田 洋子	非常勤	FP実技応用 I	1230650F	木	3	46
経済	経済	勝矢 倫生	非常勤	日本経済史 I	1220476F	金	2	42
経済	経済	蓮尾 陽平	非常勤	社会・公民科教育法	9002910F	木	2	8
経済	経済	井本 伸	非常勤	経済統計学 I	1220714F	火	2	27
経済	経済	大和証券	非常勤	証券市場論	1221350F	水	4	108
経済	経済	佐々木 宏	非常勤	スポーツ社会学	1240370F	水	2	30
経済	国際経済	古島 義雄	教授	国際経済学 I	1220121F	水	2	28
経済	国際経済	足立 浩一	准教授	マーケティング論 I	1125680F	火	3	44
経済	国際経済	鍋島 正次郎	准教授	備後地場産業論	1220770F	水	1	21
経済	国際経済	井上 矩之	教授	地域開発論 I	1220200F	木	3	13
経済	国際経済	尾田 温俊	教授	経済学(1)	1210111F	月	1	124
経済	国際経済	中村 博	准教授	国際学	1230670F	月	3	43
経済	国際経済	富士 彰夫	教授	アメリカ経済論 I	1125472F	木	1	63
経済	国際経済	中川 洋一	非常勤講師	国際関係論 I	1126340F	月	3	16
経済	国際経済	内海 香	非常勤講師	通関実務 II	1260261F	木	2	88
経済	国際経済	平山 亮	非常勤講師	特講 III (アジア直接投資論 II)	1260940F	木	2	11
経済	税務会計	小林 正和	准教授	プレゼンテーション I	1270130F	木	1	58
経済	税務会計	日野 恵美子	准教授	経営戦略論	1260590F	水	1	10
経済	税務会計	泉 潤慈	教授	税法	1250170F	月	2	19
経済	税務会計	大東和 武司	非常勤講師	国際経営論	1260330F	月	1	15
経済	税務会計	張 楓	准教授	経営組織論 I	1250420 F	火	2	22
経済	税務会計	許 霽	教授	基礎簿記 I	1210095F	金	2	125
経済	税務会計	井手吉 成佳	講師	工業簿記	1250041F	木	2	16
経済	税務会計	古川 櫻子	非常勤講師	民法 B I	1220920F	火	2	115
経済	税務会計	池下 泰宏	非常勤講師	税務会計 I	1250310F	金	2	13
経済	税務会計	堀内 和葉	非常勤講師	財務諸表論答案演習 I	1250150F	水	2・3・4	5
経済	税務会計	荒木 純子	非常勤講師	商業簿記 II	1250021F	月	1	28
人間文化	心理	平 伸二	教授	生理心理学	2320220F	水	1	49
人間文化	心理	青野 篤子	教授	社会心理学	2110150F	火	2	50
人間文化	心理	橋本 優花里	教授	認知心理学	2320160F	水	2	48
人間文化	心理	野寺 綾	准教授	教育心理学概論	2320180F	火	1	54
人間文化	心理	川人 潤子	講師	心理学基礎論	2110280F	木	1	60
人間文化	心理	赤澤 淳子	教授	教育相談	2320410F	金	3	70
人間文化	人間文化	西田 正	教授	日英比較文化 I	2122340 F	木	3	7
人間文化	人間文化	重迫 隆司	准教授	現代芸術とサブカルチャー論	2120380F	金	3	39
人間文化	人間文化	脇 忠幸	講師	日本語学概論 I	2120410F	木	3	43
人間文化	人間文化	柳川 真由美	講師	日本近世の政治と文化 1	2120800F	水	2	18
人間文化	メディア情報文化	阿部 純	講師	情報社会とコミュニケーション	2110831F	月	4	31
人間文化	メディア情報文化	渡辺 浩司	准教授	ゲームメディア論	2123370F	月	4	24
人間文化	メディア情報文化	三宅 正太郎	教授	メディアと調査	2123300F	月	3	19

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
人間文化	メディア情報文化	村上 博郁	非常勤講師	企画・プロデュース論	2123670F	月	3	21
人間文化	メディア情報文化	田中 聡登	非常勤講師	広告制作	2123460F	月	4	15
人間文化	メディア情報文化	奥原 寛樹	非常勤講師	マスメディア論	2123121F	火	2・3	23
人間文化	メディア情報文化	大塚 勉	非常勤講師	プリントメディア制作(基礎)	2123230F	木	1	22
人間文化	メディア情報文化	中嶋 健明	非常勤講師	3DCG	2123780F	木	3・4	16
人間文化	メディア情報文化	藤田 敏恵	非常勤講師	アナウンス	2123490F	金	3	24
工	スマートシステム	宮内 克之	教授	地域防災基礎	0156021F	水	5	99
工	スマートシステム	関田 隆一	准教授	物理学Ⅰ	3010101F	火	1	65
工	スマートシステム	田中 聡	准教授	通信工学	3120440F	木	1	19
工	スマートシステム	沖 俊任	准教授	CADⅠ	3120890F	月	2	17
工	スマートシステム	栗延 俊太郎	教授	デジタルシステムⅠ	3121220F	金	4	15
工	スマートシステム	来山 弘通	非常勤講師	ものづくり加工法	3121260F	月	2	25
工	スマートシステム	伍賀 正典	講師	ロボット制御	3121380F	水	1	15
工	建築	宮地 功	教授	設計製図演習Ⅲ	3320180F	火	3・4	35
工	建築	田辺 和康	教授	地学	3010292F	木	1	46
工	建築	都祭 弘幸	教授	静力学Ⅱ	3220142F	木	2	32
工	建築	都祭 弘幸	教授	構造力学Ⅱ	3220141F	木	2	9
工	建築	水上 優	教授	設計製図演習Ⅰ	3320040F	月	3・4	69
工	建築	藤原 美樹	講師	デザイン論	3310010F	水	1	69
工	建築	伊澤 康一	講師	建築環境工学Ⅰ	3320200F	木	4	34
工	建築	伊澤 康一	講師	専門英語	3010334F	金	2	41
工	建築	伊澤 康一	講師	居住設備	3320450F	金	4	37
工	建築	酒井 要	助教	CG演習	3320730F	水	1・2	38
工	情報工	清水 光	教授	専門英語	3010331F	月	3	39
工	情報工	占部 逸正	教授	論理回路	3421361F	木	2	41
工	情報工	新谷 敏朗	准教授	データ構造とアルゴリズムⅠ	3421240F	月	4	41
工	情報工	宮崎 光二	講師	Java入門	3421450F	木	2	38
工	情報工	片桐 重和	助教	実用ソフトウェア	3421290F	金	1	31
工	機械システム工	轟崎 展	教授	メカニカルデザイン	3520760F	月	2	25
工	機械システム工	布施 守雄	教授	機械設計製図基礎	3520010F	水	3	36
工	機械システム工	坂口 勝次	教授	熱力学	3521260F	月	2	51
工	機械システム工	中東 潤	准教授	デジタルデザイン	3521290F	金	2	33
工	機械システム工	小林 正明	講師	自動車整備工学	3520871F	月	3	23
工	機械システム工	小林 正明	講師	自動車整備工学	3520872F	月	3	1
生命工	生物工	秦野 琢之	教授	微生物培養工学	4121490F	月	2	17
生命工	生物工	山本 覚	教授	代謝生化学	4010242F	火	2	32
生命工	生物工	藤田 泰太郎	教授	微生物育種学	4120080F	金	2	40
生命工	生物工	山口 泰典	教授	動物機能利用学	4121510F	金	1	33
生命工	生物工	原口 博行	教授	植物栄養生理学	4120870F	水	2	45
生命工	生物工	岩本 博行	教授	化学Ⅰ	3010181F	月	1	43
生命工	生物工	広岡 和丈	准教授	化学Ⅱ	3010193F	金	2	48
生命工	生物工	壺井 基夫	併任教授	分子生物学	4120060F	月	1	48
生命工	生命栄養科	湖上 倫子	教授	フードコーディネータ論	4220900F	水	2	34
生命工	生命栄養科	山本 英二	教授	フードプロセス	4220710F	水	2	42
生命工	生命栄養科	井ノ内 直良	教授	食品科学	4210180F	火	1	45
生命工	生命栄養科	高橋 知佐子	准教授	応用栄養学	4220933F	木	1	29
生命工	生命栄養科	高橋 知佐子	准教授	応用栄養学	4220934F	金	1	34
生命工	生命栄養科	平松 智子	非常勤講師	臨床栄養学Ⅱ	4221000F	木	1	60
生命工	生命栄養科	小山 峰志	非常勤講師	社会福祉概論	4210131F	水	1	40
生命工	生命栄養科	小山 峰志	非常勤講師	社会福祉概論	4210132F	水	2	40

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
生命工	海洋生物科	南 卓志	教授	沿岸域の水産業	4321621F	木	2	105
生命工	海洋生物科	満谷 淳	教授	化学 I	3010183F	月	2	50
生命工	海洋生物科	有瀬 真人	教授	増養殖学	4321231F	水	1	101
生命工	海洋生物科	北口 博隆	准教授	暮らしと微生物	4310010F	火	1	113
生命工	海洋生物科	阪本 憲司	准教授	魚学概論	4321120F	火	2	110
生命工	海洋生物科	水上 雅晴	講師	観賞魚の飼育と繁殖	4321351F	月	1	99
生命工	海洋生物科	宮崎 信之	客員教授	海産哺乳類学	4320730F	前期	集中	59
薬	薬	吉富 博則	教授	薬物動態 II	5130840F	木	1	90
薬	薬	前原 昭次	助教	実感する化学	0110650F	木	1	25
薬	薬	村上 信行	客員教授	社会保障制度と薬剤経済-1	5131140F-1	水	2	85
薬	薬	五郎丸 剛	准教授	社会保障制度と薬剤経済-2	5131140F-2	水	2	85
薬	薬	富田 久夫	教授	製剤材料の性質	5130770 F	木	2	96
薬	薬	田淵 紀彦	准教授	生体防御 I	5130510F	木	3	95
薬	薬	井上 敦子	教授	自然と人間 A	0110690F	火	1	158
薬	薬	小嶋 英二郎	教授	臨床検査	5130880F	木	2	84
薬	薬	田中 哲郎	教授	医薬品をつくる特講	5121260-1	火	1	109
薬	薬	藤岡 晴人	教授	官能基と構造解析	5130250F	水	1	157
薬	薬	江藤 精二	教授	悪性腫瘍と薬物治療-2	5120880F-2	月	1	84
薬	薬	江藤 精二	教授	患者情報-1	5120930F-1	火	1	83
薬	薬	渡邊 正知	准教授	生殖器・内分泌疾患と薬物治療-1	5130820F-1	金	2	96
薬	薬	田村 豊	教授	人体の構造と機能 I	5130411F	木	1	161
薬	薬	土谷 大樹	講師	生体機能調節	5130480F	水	2	159
薬	薬	長崎 信浩	教授	ファーマシューティカルケア総合演習 「感染制御学の修得とチーム医療の実践」	5121210F-3	木	3・4	5
薬	薬	松岡 浩史	講師	遺伝子を操作する	5120520F	月	1	95
薬	薬	金尾 義治	教授	薬物の臓器への到達と消失	5130760F	金	1	95
薬	薬	岡村 信幸	教授	薬になる動植物	5130260F	木	1	158
薬	薬	宇野 勝次	教授	骨・関節、アレルギー・免疫疾患と薬物治療	5130860F	火	2	86
薬	薬	片山 博和	教授	医薬品情報	5121140F	金	3	94
薬	薬	福長 将仁	教授	医療の担い手の心がまえ	5130920F	金	3	90
薬	薬	田中 哲郎	教授	医薬品をつくる特講	5121260F-1	火	1	107
薬	薬	秦 季之	准教授	物質の構造 I	5130030F	火	2	156
薬	薬	大橋 一慶	教授	化学入門 A	0110670F	水	1	159
薬	薬	道原 明宏	准教授	バイオ医薬品とゲノム情報	5130910F	木	3	79
薬	薬	杉原 成美	教授	疾病の予防	5130640F	金	4	84
薬	薬	教野 博	非常勤講師	ファーマシューティカルケア総合演習	5121210F-4	水	3・4	28
薬	薬	井上 裕文	准教授	化学物質の検出と定量	5130040F	金	2	155
薬	薬	塩見 浩人	教授	薬の作用と生体内運命	5130710F	木	2	160
大学教育センター		丹藤 浩二	教授	世界史(1)	0130310F	火	2	55
大学教育センター		大塚 豊	教授	教育原理	0120502F	火	4	21
大学教育センター		荒木 紀幸	教授	発達心理学	0140801F	水	3	150
大学教育センター		小野 太幹	准教授	数理科学	0110252F	火	3	22
大学教育センター		米崎 里	准教授	英語発展 I	1930115F	木	3	53
大学教育センター		地主 弘幸	准教授	物理の世界	0110450F	水	3	29
大学教育センター		若松 正晃	講師	英語発展 I	1930113F	木	3	44
大学教育センター		竹盛 浩二	講師	日本語表現法	1307324F	金	4	53
大学教育センター		LA.kurotobi	講師	英会話(1)	1931007F	木	2	35
大学教育センター		前田 吉広	助教	キャリアデザイン II	0160213F	金	5	28
大学教育センター		川地 洋一	特任教授	近代教育文化論 1	2121220F	火	3	5
大学教育センター		山内 優佳	非常勤講師	英語(I)	1902107F	水	3	53
大学教育センター		神野 靖子	非常勤講師	音楽	0150411F	木	2	14

学部・学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
大学教育センター	劉 国彬	非常勤講師	中国語(I)	0190617F	水	2	25
大学教育センター	和田 文雄	非常勤講師	人文地理 I	0130410F	木	3	102
大学教育センター	斎藤 拓海	非常勤講師	日本史(1)	0130103F	水	3	61
大学教育センター	末蒔 敏久	非常勤講師	中国語(I)	0190613F	火	3	39
大学教育センター	中元 さおり	非常勤講師	日本語表現法	1307318F	月	3	42
大学教育センター	池田 幸恵	非常勤講師	英語(I)	1902109F	木	2	40
大学教育センター	溝瀨 裕	非常勤講師	憲法	0120152F	金	1	111
大学教育センター	高垣 裕子	非常勤講師	英語発展I	1930110F	水	3	40
大学教育センター	新井 純美	非常勤講師	英語発展I	1930118F	金	3	41
大学教育センター	柴原 直樹	非常勤講師	日本史(1)	0130104F	金	3	93
大学教育センター	赤松 頌也	非常勤講師	フランス語(1)	0190510F-2	火	3	61
大学教育センター	金川 洋臣	非常勤講師	書道	0150100F	火	3	29
大学教育センター	渋谷 清	非常勤講師	絵画	0150250F	火	4	20
大学教育センター	上村 崇	非常勤講師	倫理学(1)	0140400F	火	4	83
大学教育センター	田中 宏和	非常勤講師	市民生活と法	0120551F	金	2	39
大学教育センター	藤本 明成	非常勤講師	陶芸	0150301F	水	4	25
大学教育センター	菅波 眞吾	非常勤講師	剣道	0151110F	金	2	8
大学教育センター	施 永達	非常勤講師	中国語(I)	190618	木	3	27
大学教育センター	大村 浩	非常勤講師	柔道(D)	0150900F	水	4	33
大学教育センター	石井 成人	非常勤講師	フランス語(I)	0190510F-1	火	3	71
大学教育センター	田中 健	非常勤講師	哲学(D)	0140100F	水	3	68
大学教育センター	三時 眞貴子	非常勤講師	教育原理	0120504F	火	3	29
大学教育センター	的場 千尋	非常勤講師	体育(1)	0150605F	木	2	29
大学教育センター	宮田 朋恵	非常勤講師	国語表現法 I	1307308F	水	2	43

平成26年度（後期） 授業評価アンケート実施科目一覧

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済	経済	平田 宏二	教授	地方財政論Ⅱ	1220380F	水	2	30
経済	経済	三川 敬	教授	経済数学 経済数学Ⅰ	1260372F 1220454F	火・水	2	80
経済	経済	吉田 卓史	准教授	スポーツ理論Ⅱ	1240050F	火	1	37
経済	経済	塚原 一郎義治	准教授	金融論Ⅱ	1220091F	水	3	57
経済	経済	石丸 敬二	准教授	情報処理Ⅱ	1210042F	火	2	41
経済	経済	筒本 和弘	教授	WebデザインⅡ	1270070F	水	3	56
経済	経済	増澤 拓也	准教授	ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱほか	1125254F 1125264	火	4	200
経済	経済	磯崎 紀夫	非常勤	不動産・相続応用Ⅱ	1230620F	火	5	57
経済	経済	宮田 朋恵	非常勤	国語表現法Ⅱ	1210021F	水	3	220
経済	経済	野村証券	非常勤	資本市場論	1230290F	水	4	70
経済	経済	李 森	教授	労働経済論Ⅱ	1220500F	火	1	30
経済	国際経済	高羅 ひとみ	非常勤講師	開発経済論	1260040F	金	3	6
経済	税務会計	伊藤 祐一	教授	情報処理技法	1210443 F	水	1	37
経済	経済	朝西 知徳	非常勤	スポーツ心理学Ⅰ	1240170F	後期	集中	40
人間文化	心理	日下部 典子	教授	カウンセリング論	2320010F	水	3	97
人間文化	心理	山崎 理央	准教授	パーソナリティと適応	2310070F	火	2	58
人間文化	心理	金平 希	助教	教育臨床心理学	2320020F	木	1	70
人間文化	心理	高澤 健司	非常勤	生涯発達心理学	2320200F	火	2	50
人間文化	人間文化	青木 美保	教授	日本語表現法2	2110221F	水	2	45
人間文化	人間文化	原 千史	教授	ヨーロッパの社会・思想・芸術2	2120890F	月	2	18
人間文化	人間文化	清水 洋子	講師	中国語(Ⅱ)	0190629F	木	4	23
人間文化	人間文化	山東 資子	講師	英語表現法2	2110550F	金	2	11
人間文化	メディア情報文化	安田 暁	准教授	デザイン基礎	2123180F	火	2	30
人間文化	メディア情報文化	内垣戸 貴之	准教授	eラーニング論	2123570F	火	2	29
人間文化	メディア情報文化	田中 始男	教授	基礎情報処理Ⅱ	2210063F	金	2	10
人間文化	メディア情報文化	松田 教道	非常勤講師	コンピュータミュージック	2123570F	水	3	21
工	スマートシステム	宮内 克之	教授	地域防災応用	0156031F	水	5	73
工	スマートシステム	宮内 克之	教授	地域防災応用	0156032F	水	5	
工	スマートシステム	三宅 雅保	教授	技術英語	3010332F	水	4	17
工	スマートシステム	香川 直己	教授	回路理論Ⅰ	3120040F	火	1	27
工	スマートシステム	三谷 康夫	教授	音声認識・音声合成	3121430F	水	2	10
工	スマートシステム	横井 一仁	客員教授	スマートシステム概論	3121600 F	金	3	18
工	建築	大島 秀明	教授	建築計画Ⅱ	3320110 F	月	3	32
工	建築	山田 明	講師	静力学Ⅰ	3220052F	木	3	78
工	建築	宮内 克之	教授	コンクリート工学Ⅱ	3220440F	金	2	5
工	情報工	服部 進	教授	コンピュータアーキテクチャ	3421670F	火	4	47
工	情報工	尾関 孝史	教授	オペレーティングシステム	3420340F	木	2	39
工	情報工	中道 上	准教授	ソフトウェア工学	3421160F	水	1	36
工	情報工	中村 雅樹	助教	橋梁工学	3220450F	火	3	6
工	情報工	中嶋 健明	非常勤	Webデザイン	3420880F	水隔週	4,5	29
工	情報工	樽谷 昭彦	非常勤	コンピュータグラフィックス	3420380F	火	2	32
工	機械システム工	野西 利次	教授	機械力学	3520250	月	4	45
工	機械システム工	内田 博志	教授	カーエレクトロニクス	3520900F	火	2	17
工	機械システム工	真鍋 圭司	教授	材料力学Ⅱ	3520230F	金	1	44
工	機械システム工	木村 純壮	教授	システム制御入門	3520240F	木	4	43
共同利用センター		瀬島 紀夫	講師	基本情報処理	1116017F	木	3	16
生命工	生物工	久富 泰資	教授	基礎微生物学	4120480F-1	金	2	45
生命工	生物工	松崎 浩明	教授	遺伝子工学	4120200F	木	1	49
生命工	生物工	太田 雅也	教授	分析化学	10221F 301022	木	1	123
生命工	生物工	佐藤 淳	准教授	環境保全・法規	4120910F	金	2	28

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
生命工	生物工	吉崎 隆之	助教	醗酵生産・醸造学	4120850F-2	木	2	44
生命工	生物工	今井 俊治	客員教授	植物栽培技術	4120950F	A週水	3・4	42
生命工	生物工	池田 達哉	客員教授	植物分子育種学	4120190F	土隔週	1・2	33
生命工	生命栄養科	石崎 由美子	教授	環境・スポーツ栄養学	4221641F	月	2	34
生命工	生命栄養科	石崎 由美子	教授	環境・スポーツ栄養学	4221642F	火	2	33
生命工	生命栄養科	赤木 收二	教授	解剖生理学I	4210090F	月	1	42
生命工	生命栄養科	菊田 安至	教授	公衆衛生学	4220421F	金	1	34
生命工	生命栄養科	木村 安美	教授	公衆栄養学	4220941F	水	1	31
生命工	生命栄養科	木村 安美	教授	公衆栄養学	4220942F	水	2	35
生命工	生命栄養科	石井 香代子	准教授	給食マネジメント I	4221611 F	木	1	32
生命工	生命栄養科	石井 香代子	准教授	給食マネジメント I	4221612 F	木	2	30
生命工	生命栄養科	村上 泰子	講師	臨床栄養学 I	4220961F	金	1	33
生命工	生命栄養科	村上 泰子	講師	臨床栄養学 I	4220962F	金	2	33
生命工	生命栄養科	中浦 嘉子	助教	食品分析化学	4220051F	月	1	30
生命工	生命栄養科	中浦 嘉子	助教	食品分析化学	4220052F	木	2	41
生命工	海洋生物科	三輪 泰彦	教授	水産食品の科学	4320991F, 92F	月	2	85
生命工	海洋生物科	河原 栄二郎	教授	魚介類の疾病と予防	4321271F, 72F	金	1	92
生命工	海洋生物科	高村 克美	教授	海洋動物分類学	4321130F	月	2	109
生命工	海洋生物科	倉掛 昌裕	教授	食品安全管理学	4220324F, 22F	木	2	97
生命工	海洋生物科	渡辺 伸一	准教授	海洋動物の行動と生態	4321341F, 42F	木	1	88
生命工	海洋生物科	山岸 幸正	講師	海洋植物分類学	4321140F	金	2	98
生命工	海洋生物科	伏見 浩	兼任教授	栽培漁業と魚介類の養殖	4321531F, 32F	火	1	10
薬	薬	堤 広之	助教	法制度	5131120F	木	4, 5	94
薬	薬	上敷領 淳	講師	食品衛生	5120610F	金	2	6
薬	薬	上敷領 淳	講師	食品衛生	5130610F	金	2	95
薬	薬	秦 季之	准教授	物質の状態I	5130010F	月	1	166
薬	薬	福長 将仁	教授	病原微生物とたたかう	5120750F	水	2	100
薬	薬	菅 奈奈美	非常勤講師	医療コミュニケーション	5120930F	金	2	84
薬	薬	大西 正俊	講師	循環器・腎疾患と薬物治療	5120810F	木	2	100
薬	薬	赤崎 健司	教授	生命体の基本単位としての細胞	5130430F	木	2	167
薬	薬	本屋敷 敏雄	准教授	生体エネルギー	5130460F	金	2	153
薬	薬	西尾 廣昭	教授	血液・造血管系疾患と薬物治療	5130730F	木	3	97
薬	薬	椎木 滋雄	非常勤講師	血液・造血管系疾患と薬物治療	5130730F-2	木	3	97
薬	薬	片山 博和	教授	剤形をつくる-1	5130780F-1	火	1	98
薬	薬	佐藤 英治	教授	調剤	5130750F	金	1	97
薬	薬	鶴田 泰人	教授	生体中の金属・分子を解析する方法	5130080 F	木	2	156
薬	薬	岡村 信幸	教授	漢方薬物Ⅱ	5130242F	月	2	167
薬	薬	森田 哲生	教授	細胞を構成する分子	5130490F	月	2	160
薬	薬	田中 哲郎	教授	剤形をつくる	5130780F-2	火	2	98
薬	薬	大橋 一慶	教授	天然物化学	5130280F	木	3	154
薬	薬	日比野 俐	教授	医薬品開発Ⅱ	5131110F	金	3	94
薬	薬	宇野 勝次	教授	生体防御Ⅱ	5120540F, 5130520F	火	2	98
薬	薬	石津 隆	教授	官能基の性質・反応・合成	5130221F	木	1	170
薬	薬	井上 裕文	准教授	化学平衡	5130021F	水	1	165
薬	薬	町支 臣成	教授	有機化合物の骨格と性質	5130212F, 5130211 F	火	1	160
薬	薬	大濱 修	特任教授	生命倫理	5110100F	金	4	95
薬	薬	吉田 智郎	非常勤講師	基礎病態解析学	5130850F-2	木	3	85
薬	薬	高須 伸治	非常勤講師	基礎病態解析学	5130850F-3	木	3	85
大学教育センター		岡 晃弘	教授	ドイツ語(Ⅱ)	0190421F	火	1	60
大学教育センター		鶴崎 健一	准教授	暮らしとバイオ	0112202F	水	2	68
大学教育センター		山口 昌宏	講師	教職概論	9003801F	水	3	70
大学教育センター		田辺 尚子	非常勤講師	英語発展Ⅱ	1930216F	金	3	20

学生による授業評価と自己点検アンケート

〒 〇〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

この科目の授業に関する次の各質問の回答として最も適切な選択肢の に、しをばっきりと記入してください。

【質問1】 教員の授業の進め方は適切ですか？（板書、パワーポイントあるいは配布プリント、テキストなどを含めて）

- 適切である ほぼ適切である どちらとも言えない
 やや不適切である 不適切である

【質問2】 教員の話し方は明瞭ですか？（聞き取りやすいですか？）

- 聞き取りやすい ほぼ聞き取りやすい どちらとも言えない
 やや聞き取りにくい 大変聞き取りにくい

【質問3】 授業はシラバス通りに行われていますか？

- 行われている ほぼ行われている どちらとも言えない
 やや異なっている 全く異なっている シラバスを読んでいない

【質問4】 教員は、1 講義時間（90分）の授業時間を確保していますか？

- 守っている ほぼ守っている どちらとも言えない
 やや守っていない 守っていない

【質問5】 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思えますか？

- 思う やや思う どちらとも言えない あまり思わない 全く思わない
 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えますか？（質問したことがある方のみ答えてください）

- 誠意をもって答える ほぼ誠意をもって答える どちらとも言えない
 やや誠意が感じられない 誠意が感じられない

【質問7】 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？

- 大いに感じる やや感じる 感じる どちらとも言えない
 あまり感じない 全く感じない

【質問8】 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。

- 満足 ほぼ満足 どちらとも言えない やや不満である 不満である

【質問9】 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？

- 必ず行う ほぼ行う ときどき行う
 あまり行わない 全く行わない

【質問10】 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？

- 全くない ほとんどない どちらとも言えない
 しばしばある 毎回ある

【質問11】 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？

- 全出席 ほぼ出席 ときどき欠席する
 やや欠席が多い 欠席が大半多い

【質問12】 この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？

- 大いに深まっている やや深まっている どちらとも言えない
 あまり深まっていない 全く深まっていない

【質問13】 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？

- 積極的に行っている かなり行っている 行おうと思っている
 あまり行っていない 全く行っていない

【質問14】 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？

- 学修が十分進んでおり、質問の必要がない しばしば質問する ときどき質問する
 質問はあるが、積極的に取り進んでいないため、質問すべきことが少ない 質問すべきことが少ない

【質問15】 この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？

- 大いに思う やや思う どちらとも言えない
 あまり思わない 全く思わない

【質問16】 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。

- 十分に成果があがっている 少し成果があがっている どちらとも言えない
 あまり成果があがっていない 全く成果があがっていない

この授業について、特に意見があれば表面の自由記述欄に記入してください。

平成26年度前・後期 授業評価・自己点検アンケート結果に対する報告書

担当教員	氏 名	所属学部・学科		
		学部	学科	
講義名		科目分類 (不要な方を消去する)		受講者数
		共通教育科目	専門科目	名

お手数ですがこの科目のアンケート集計結果を各質問毎に記載してください

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8
進め方	話し方	計画性	授業時間	講義の工夫	質問への誠意	難易度の適切性	満足度
質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16
授業の準備	集中力	出席状況	知識の深まり	受講の工夫	質問への積極性	意欲の高まり	学修の成果

◆アンケート結果の学生へのフィードバック方法

--

◆この講義に対する学生の評価結果について (アンケートの質問1～質問8が該当します)

○高く評価された事項
○改善を求められている事項
○今後の授業改善の計画

◆この講義を受講した学生の自己点検結果について (アンケートの質問9～質問16が該当します)

○学修成果という点でこの結果をどのように考えますか
○学生の学修成果を望ましい方向に進展させる方策はありますか

3. 調査結果

「学生による授業評価アンケート」の集計結果は各科目、学科、学部、全学の単位で集計しており、それぞれの責任者に報告している。本報告書に全てを掲載すると膨大な内容となるため、学部、および全学の単位について掲載することにした。また、平成 25 年度から大学教育センターに設置された教学 IR (Institutional Research) 部門が、「学生による授業評価アンケート」の集計データから得られる教育改善に向けた提言を行い、本報告書では調査結果の傾向を報告することにする。

(1) アンケート実施状況について

このアンケート調査は授業時間の一部を利用して、配布した設問用紙に回答後に回収しており、比較的高い回収率を得ることができた。平成 26 年度前期 (表 1-1)、後期 (表 1-2)、および通年 (表 1-3) のアンケート回答率は、全学でそれぞれ前期が 82.3%、後期が 78.2%、通年で 80.6% となり、通年で前年度を 1.1% 下回ったが、80% を超えていた。学部間で比較すると薬学部の回答率が通年で 87.0% と高い回答率を示したが、経済学部、人間文化学部では回答率が 80% を下回った。一方で、工学部は 76.9% から 84.7% と改善が見られた。すべての学部で 80% を上回る回答率を目指し、教育改革に当たってより全体の学生の回答を反映できるように改善を図りたい。

表 1-1 学生による授業評価アンケート (前期) <回収率について>

学部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
受講者数	9,712	1,708	676	1,027	1,406	3,121	1,774
回答者数	7,991	1,262	543	867	1,050	2,817	1,452
回答率	82.3%	73.9%	80.3%	84.4%	74.7%	90.3%	81.8%

表 1-2 学生による授業評価アンケート (後期) <回収率について>

学部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
受講者数	7,008	1,067	519	598	1,549	3,041	218
回答者数	5,481	498	369	510	1,357	2,547	184
回答率	78.2%	46.7%	71.1%	85.3%	87.6%	83.8%	84.4%

表 1-3 学生による授業評価アンケート (通年) <回収率について>

学部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
受講者数	16,720	2,775	1,195	1,625	2,955	6,162	1,992
回答者数	13,472	1,760	912	1,377	2,407	5,364	1,636
回答率	80.6%	63.4%	76.3%	84.7%	81.5%	87.0%	82.1%

(2) 調査結果の内容 (学生による授業評価結果について)

① 授業の進め方について

表 2-1、2-2、2-3 に示すように、教員の授業の進め方はすべての学部で高く評価されている。全学の評価平均は通年で 4.30 であり高い評価であった。このことから、教員の授業の進め方については、概ね適切に実施されていると評価することができる。ただし、一部の科目については改善を

強く求められているものも存在した。なお、経済学部は 4.45、人間文化学部は 4.52 と理系学部と比較して評価が高いが、これは理系で PBL などのアクティブ・ラーニングの導入例が多いことと関連していると思われる。

表 2-1 学生による授業評価アンケート（前期） <授業の進め方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 1】進行 教員の授業の進め方は適切ですか？	適切である	5	3802	707	332	355	489	1206	713
	ほぼ適切である	4	3023	413	165	382	419	1141	503
	どちらともいえない	3	852	106	40	104	111	316	175
	やや不適切である	2	221	23	4	20	26	108	40
	不適切である	1	82	11	1	5	4	42	19
	平均点		4.28	4.41	4.52	4.23	4.30	4.19	4.28

表 2-2 学生による授業評価アンケート（後期） <授業の進め方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 1】進行 教員の授業の進め方は適切ですか？	適切である	5	2725	316	216	222	680	1202	81
	ほぼ適切である	4	2049	144	134	205	501	979	78
	どちらともいえない	3	532	34	14	63	137	267	17
	やや不適切である	2	121	3	5	10	29	68	6
	不適切である	1	53	1	0	10	10	30	2
	平均点		4.33	4.55	4.52	4.21	4.34	4.28	4.25

表 2-3 学生による授業評価アンケート（通年） <授業の進め方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 1】進行 教員の授業の進め方は適切ですか？	適切である	5	6527	1023	548	577	1169	2408	794
	ほぼ適切である	4	5072	557	299	587	920	2120	581
	どちらともいえない	3	1384	140	54	167	248	583	192
	やや不適切である	2	342	26	9	30	55	176	46
	不適切である	1	135	12	1	15	14	72	21
	平均点		4.30	4.45	4.52	4.22	4.32	4.23	4.27

② 話し方について

教員の話し方はすべての学部で高く評価されている（表 3-1、3-2、3-3）。全学の平均評価は通年で 4.26 と昨年から 0.6 ポイント上昇した。このことから、話し方については、概ね改善が図られていると評価することができる。ただし、一部の科目については改善を強く求められているものも存在した。

表 3-1 学生による授業評価アンケート（前期） <話し方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 2】話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	3968	659	367	335	529	1338	740
	ほぼ聞き取りやすい	4	2695	396	126	369	354	995	455
	どちらともいえない	3	823	115	30	120	107	307	144
	やや聞き取りにくい	2	379	64	16	37	48	133	81
	大変聞き取りにくい	1	112	28	2	5	10	36	31
	平均点		4.26	4.26	4.55	4.15	4.28	4.23	4.24

表 3-2 学生による授業評価アンケート（後期） <話し方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問2】話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	2692	290	239	215	663	1207	71
	ほぼ聞き取りやすい	4	1888	158	100	173	472	910	68
	どちらともいえない	3	567	36	20	74	141	275	19
	やや聞き取りにくい	2	236	12	7	33	57	106	21
	大変聞き取りにくい	1	93	2	1	15	22	48	5
	平均点		4.25	4.45	4.55	4.06	4.25	4.23	3.97

表 3-3 学生による授業評価アンケート（通年） <話し方について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問2】話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	6660	949	606	550	1192	2545	811
	ほぼ聞き取りやすい	4	4583	554	226	542	826	1905	523
	どちらともいえない	3	1390	151	50	194	248	582	163
	やや聞き取りにくい	2	615	76	23	70	105	239	102
	大変聞き取りにくい	1	205	30	3	20	32	84	36
	平均点		4.25	4.32	4.55	4.11	4.27	4.23	4.21

③ 授業の計画性について

授業の計画性はすべての学部で高く評価されており、本学における授業がシラバスに基づいて実施されていると評価できる（表 4-1、4-2、4-3）。しかしながら、シラバスを読んでいないという項目に 27.9%（昨年は26.1%）も回答があることは（表 4-3）、問題点として指摘される。

表 4-1 学生による授業評価アンケート（前期） <計画性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問3】計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	3083	638	262	311	362	967	543
	ほぼ行われている	4	2106	358	152	290	314	618	374
	どちらとも言えない	3	513	91	23	68	73	145	113
	やや異なっている	2	43	10	1	9	5	7	11
	全く異なっている	1	10	3	0	1	1	4	1
	シラバスを読んでいない	0	2208	159	104	185	290	1065	405
	平均点		4.43	4.47	4.54	4.33	4.37	4.46	4.39

表 4-2 学生による授業評価アンケート（後期） <計画性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問3】計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	2190	289	177	173	488	989	68
	ほぼ行われている	4	1320	115	109	148	347	534	59
	どちらとも言えない	3	363	26	21	58	129	123	6
	やや異なっている	2	23	1	0	2	7	12	1
	全く異なっている	1	19	2	0	13	2	2	0
	シラバスを読んでいない	0	1550	65	61	115	381	876	50
平均点		4.44	4.59	4.51	4.18	4.35	4.50	4.45	

表 4-3 学生による授業評価アンケート（通年） <計画性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問3】計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	5273	927	439	484	850	1956	611
	ほぼ行われている	4	3426	473	261	438	661	1152	433
	どちらとも言えない	3	876	117	44	126	202	268	119
	やや異なっている	2	66	11	1	11	12	19	12
	全く異なっている	1	29	5	0	14	3	6	1
	シラバスを読んでいない	0	3758	224	165	300	671	1941	455
平均点		4.43	4.50	4.53	4.27	4.36	4.48	4.40	

④ 授業時間について

授業時間については、ほぼ全ての授業で厳守されており評価平均は 4.58 であった。「守っている」と「ほぼ守っている」を併せると 94.5%であった(表 5-1、5-2、5-3)。よって本学における授業は開始時間と終了時間が厳密に守り、90分を確保していると高く評価することができる。

表 5-1 学生による授業評価アンケート(前期) <時間について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
	守っている	ほぼ守っている							
【質問4】時間	守っている	5	5261	833	394	534	642	1935	923
	ほぼ守っている	4	2286	365	124	273	355	757	412
教員は、1講義(90分)の授業時間を確保していますか?	どちらとも言えない	3	312	54	12	46	34	86	80
	やや守っていない	2	66	4	9	8	13	13	19
	守っていない	1	38	3	2	4	2	12	15
	平均点		4.59	4.61	4.66	4.53	4.55	4.64	4.52

表 5-2 学生による授業評価アンケート(後期) <時間について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
	守っている	ほぼ守っている							
【質問4】時間	守っている	5	3531	330	274	311	837	1643	124
	ほぼ守っている	4	1648	140	85	164	432	768	55
教員は、1講義(90分)の授業時間を確保していますか?	どちらとも言えない	3	229	25	9	27	55	111	2
	やや守っていない	2	47	1	1	4	21	18	2
	守っていない	1	20	1	0	4	8	6	1
	平均点		4.57	4.60	4.71	4.52	4.53	4.58	4.63

表 5-3 学生による授業評価アンケート(通年) <時間について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
	守っている	ほぼ守っている							
【質問4】時間	守っている	5	8792	1163	668	845	1479	3578	1047
	ほぼ守っている	4	3934	505	209	437	787	1525	467
教員は、1講義(90分)の授業時間を確保していますか?	どちらとも言えない	3	541	79	21	73	89	197	82
	やや守っていない	2	113	5	10	12	34	31	21
	守っていない	1	58	4	2	8	10	18	16
	平均点		4.58	4.60	4.68	4.53	4.54	4.61	4.54

⑤ 講義の工夫について

担当教員の講義の工夫については、全学では 4.13 と高い評価平均であるが、すべての設問項目の中では比較的低い評価であった(表 6-1、6-2、6-3)。また、学部間での評価に違いが認められた。昨年に続き、工学部の評価(3.97)が3点台で最も低く改善の余地が残されている。

表 6-1 学生による授業評価アンケート(前期) <講義の工夫について>

質問	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター
	思う	やや思う							
【質問5】講義の工夫は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか?	思う	5	3429	607	312	303	418	1140	649
	やや思う	4	2614	328	152	302	377	984	471
	どちらとも言えない	3	1459	247	65	195	208	514	230
	あまり思わない	2	372	55	9	55	38	135	80
	全く思わない	1	97	21	2	8	8	37	21
平均点		4.12	4.15	4.41	3.97	4.10	4.09	4.14	

表6-2 学生による授業評価アンケート（後期） <講義の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問5】講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	思う	5	2432	287	213	182	598	1073	73
	やや思う	4	1801	133	110	181	441	861	68
	どちらとも言えない	3	964	59	39	108	242	480	34
	あまり思わない	2	218	17	6	29	56	102	7
	全く思わない	1	56	2	1	10	15	26	2
	平均点		4.16	4.38	4.43	3.97	4.15	4.12	4.10

表6-3 学生による授業評価アンケート（通年） <講義の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問5】講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	思う	5	5861	894	525	485	1016	2213	722
	やや思う	4	4415	461	262	483	818	1845	539
	どちらとも言えない	3	2423	306	104	303	450	994	264
	あまり思わない	2	590	72	15	84	94	237	87
	全く思わない	1	153	23	3	18	23	63	23
	平均点		4.13	4.21	4.42	3.97	4.13	4.10	4.13

⑥ 質問への誠意について

学生からの質問への誠意については、全学では 4.31 と高い評価平均であった(表 7-1、7-2、7-3)。出席表に書き込める質問への回答、オフィスタイムを利用しての回答など、教員は誠意をもって答えていると評価できる。但し、授業進行中や終了時の質問が少ないとの教員の指摘も見られた。

表7-1 学生による授業評価アンケート（前期） <質問への誠意について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	2997	566	302	328	353	893	555
	ほぼ誠意をもって答える	4	1689	319	124	253	236	474	283
	どちらとも言えない	3	967	160	46	132	137	306	186
	やや誠意が感じられない	2	39	8	2	4	5	8	12
	誠意が感じられない	1	38	13	2	3	2	8	10
	平均点		4.32	4.33	4.52	4.25	4.27	4.32	4.30

表7-2 学生による授業評価アンケート（後期） <質問への誠意について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	1907	243	196	166	446	795	59
	ほぼ誠意をもって答える	4	1103	106	91	138	289	433	40
	どちらとも言えない	3	640	56	26	107	189	233	26
	やや誠意が感じられない	2	28	4	2	3	7	10	2
	誠意が感じられない	1	31	4	0	4	9	14	0
	平均点		4.30	4.40	4.53	4.10	4.23	4.34	4.23

表7-3 学生による授業評価アンケート（通年） <質問への誠意について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	4904	809	498	494	799	1688	614
	ほぼ誠意をもって答える	4	2792	425	215	391	525	907	323
	どちらとも言えない	3	1607	216	72	239	326	539	212
	やや誠意が感じられない	2	67	12	4	7	12	18	14
	誠意が感じられない	1	69	17	2	7	11	22	10
	平均点		4.31	4.35	4.52	4.19	4.25	4.33	4.29

⑦ 難易度の適切性について

難易度の適切性については、設問項目の中では低い評価であり、全学の評価平均は 4.08 であった（表 8-1、8-2、8-3）。理系、文系学部間の差はほとんど見られないが、大学教育センターに属する科目の平均が低くなっている。この傾向は昨年と同様であり、大学教育センターに属する科目は、広い範囲の分野に対し学部を超えて受講生がいるため、多様な学生を意識した難易度設定の必要があると考えられる。

表 8-1 学生による授業評価アンケート（前期） <難易度の適切性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 7】 難易の適切性 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	2729	548	241	283	306	988	363
	やや感じる	4	3541	482	222	383	505	1338	611
	どちらとも言えない	3	1262	163	66	150	190	376	317
	あまり感じない	2	277	39	9	38	35	64	92
	全く感じない	1	159	30	3	12	13	33	68
	平均点		4.05	4.17	4.27	4.02	4.01	4.14	3.76

表 8-2 学生による授業評価アンケート（後期） <難易度の適切性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 7】 難易の適切性 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	1918	245	139	149	411	918	51
	やや感じる	4	2595	191	175	236	672	1231	81
	どちらとも言えない	3	763	48	40	99	212	332	31
	あまり感じない	2	120	10	5	14	36	39	15
	全く感じない	1	79	3	10	12	25	23	6
	平均点		4.12	4.34	4.16	3.97	4.04	4.17	3.85

表 8-3 学生による授業評価アンケート（通年） <難易度の適切性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 7】 難易の適切性 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	4647	793	380	432	717	1906	414
	やや感じる	4	6136	673	397	619	1177	2569	692
	どちらとも言えない	3	2025	211	106	249	402	708	348
	あまり感じない	2	397	49	14	52	71	103	107
	全く感じない	1	238	33	13	24	38	56	74
	平均点		4.08	4.22	4.23	4.01	4.02	4.15	3.77

⑧ 講義の満足度について

講義に対する満足度は、授業評価 8 項目の中で最も低い評価であり、通年全学の評価平均は 3.96 であった（表 9-1、9-2、9-3）。評価は学部間に大きな差は認められないが、通年で 4.0 を超える評価を受けたのは経済学部と人間文化学部であった。満足度の評価が低いのは、講義内容の難易度の適切性と関係がある可能性が指摘される。評価平均ではなく個々の授業科目について詳細に解析することで相関性を見出すことが可能かもしれない。また、最も高い得点（5 点）となる「満足」に対する回答数が少ないことが平均値を下げる原因となっている。完全な満足を念頭に回答するためには、良い授業に対してもさらに深く修得したかった故に「ほぼ満足」にしている例も含まれていることが考えられ、選択肢の再検討も考慮する必要があると推察される。

表9-1 学生による授業評価アンケート（前期） <講義の満足度について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問8】講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	2458	479	234	220	301	811	413
	ほぼ満足	4	3182	440	212	336	436	1208	550
	どちらとも言えない	3	1832	252	75	248	259	630	368
	やや不満である	2	366	58	19	51	41	106	91
	不満である	1	108	25	2	8	5	44	24
平均点		3.95	4.03	4.21	3.82	3.95	3.94	3.86	

表9-2 学生による授業評価アンケート（後期） <講義の満足度について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問8】講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	1712	215	146	136	374	799	39
	ほぼ満足	4	2249	186	153	212	603	996	89
	どちらとも言えない	3	1216	76	61	126	296	612	44
	やや不満である	2	202	17	5	22	57	91	8
	不満である	1	78	1	3	11	21	38	4
平均点		3.97	4.21	4.18	3.87	3.93	3.96	3.82	

表9-3 学生による授業評価アンケート（通年） <講義の満足度について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問8】講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	4170	694	380	356	675	1610	452
	ほぼ満足	4	5431	626	365	548	1039	2204	639
	どちらとも言えない	3	3048	328	136	374	555	1242	412
	やや不満である	2	568	75	24	73	98	197	99
	不満である	1	186	26	5	19	26	82	28
平均点		3.96	4.08	4.20	3.84	3.94	3.95	3.85	

（3）調査結果の内容（学生の自己点検）

① 授業の準備について

講義に臨むにあたり、授業の予習や復習をする学生の割合は極めて低く、「あまり行わない」と「全く行わない」という回答を併せると、全学通年で44.0%（表10-1、10-2、10-3）。予習と復習の習慣を身につけさせることによって、単位の実質化を図る方策の早急な実施が求められる。なお、平成26年度からシラバスに単元毎の予習を記入することを奨励しており、昨年の47.8%から3.8%の改善が見られた。平成27年度からはシラバスへの予習・復習の記入を義務化しており、学修時間の確保に関してさらに効果が上がることが期待される。

表10-1 学生による自己点検アンケート（前期） <授業の準備について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	838	187	99	92	63	289	108
	ほぼ行う	4	1228	233	101	136	125	470	163
	ときどき行う	3	2325	318	123	258	327	945	354
	あまり行わない	2	1809	258	101	187	293	652	318
	全く行わない	1	1754	258	118	190	240	444	504
	平均点		2.70	2.87	2.93	2.71	2.50	2.82	2.35

表 10-2 学生による自己点検アンケート（後期） <授業の準備について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	584	93	53	48	57	321	12
	ほぼ行う	4	849	80	99	55	139	451	24
	ときどき行う	3	1676	140	102	148	398	843	42
	あまり行わない	2	1261	92	55	114	400	543	50
	全く行わない	1	1099	93	60	145	361	379	56
	平均点		2.74	2.98	3.08	2.50	2.36	2.92	2.38

表 10-3 学生による自己点検アンケート（通年） <授業の準備について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	1422	280	152	140	120	610	120
	ほぼ行う	4	2077	313	200	191	264	921	187
	ときどき行う	3	4001	458	225	406	725	1788	396
	あまり行わない	2	3070	350	156	301	693	1195	368
	全く行わない	1	2853	351	178	335	601	823	560
	平均点		2.71	2.90	2.99	2.64	2.42	2.87	2.35

② 集中力について

授業への集中力については、いずれの学部においても標準とする 3.0 を若干ながら上回っている（表 11-1、11-2、11-3）。但し、設問が「私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることがある」と複数かつ 90 分間の単位では起きる可能性の高いものが含まれているのも、平均点が低い原因と考えられる。学生が主体的に参加する授業方法の導入が求められる。また、平成 27 年度から導入される Cerezo を利用した双方向による授業展開も活用することが肝要である。

表 11-2 学生による自己点検アンケート（後期） <集中力について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 10】集中力 授業中に私語、居眠り、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	1800	330	103	164	150	762	291
	ほとんどない	4	2808	436	195	299	341	1082	455
	どちらとも言えない	3	1667	245	122	184	280	513	323
	しばしばある	2	1332	202	94	176	230	337	293
	毎回ある	1	338	39	29	38	46	100	86
	平均点		3.55	3.65	3.46	3.44	3.30	3.74	3.40

表 11-1 学生による自己点検アンケート（前期） <集中力について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 10】集中力 授業中に私語、居眠り、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	1309	139	54	71	222	785	37
	ほとんどない	4	1965	170	147	137	470	974	62
	どちらとも言えない	3	1134	103	79	161	299	446	42
	しばしばある	2	818	70	66	109	288	251	29
	毎回ある	1	249	16	21	32	77	88	14
	平均点		3.60	3.69	3.40	3.21	3.35	3.83	3.43

表 11-3 学生による自己点検アンケート（通年） <集中力について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問10】集中力 授業中に私語、居眠り、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	3109	469	157	235	372	1547	328
	ほとんどない	4	4773	606	342	436	811	2056	517
	どちらとも言えない	3	2801	348	201	345	579	959	365
	しばしばある	2	2150	272	160	285	518	588	322
	毎回ある	1	587	55	50	70	123	188	100
	平均点		3.57	3.66	3.44	3.35	3.33	3.78	3.40

③ 出席状況について

授業への出席状況は、本調査の設問項目の中でもっとも高く、全学通年では「全出席」と「ほぼ」出席を併せると、全体の 91.2%である（表 12-1、12-2、12-3）。これは、本学の学生が真面目に授業に出席していることを示している。また、出席確認を厳密に行って3回欠席した学生の担任へ連絡を入れるという教務委員会の方針、授業の3分の1を超えて欠席した場合には定期試験を受験できないという本学の学則に拠るところが大きい。

表 12-1 学生による自己点検アンケート（前期） <出席状況について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	5576	630	299	561	683	2353	1050
	ほぼ出席	4	1729	462	169	200	261	349	288
	ときどき欠席する	3	432	110	47	60	71	68	76
	欠席が多い	2	160	47	16	34	23	14	26
	欠席が大変多い	1	58	12	10	10	10	5	11
	平均点		4.58	4.31	4.35	4.47	4.51	4.80	4.61

表 12-2 学生による自己点検アンケート（後期） <出席状況について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	3729	248	184	313	804	2076	91
	ほぼ出席	4	1250	176	117	118	396	372	69
	ときどき欠席する	3	350	45	45	41	121	77	21
	欠席が多い	2	105	22	17	23	29	12	1
	欠席が大変多い	1	42	7	6	15	6	6	2
	平均点		4.56	4.28	4.24	4.35	4.45	4.77	4.34

表 12-3 学生による自己点検アンケート（通年） <出席状況について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	9305	878	483	874	1487	4429	1141
	ほぼ出席	4	2979	638	286	318	657	721	357
	ときどき欠席する	3	782	155	92	101	192	145	97
	欠席が多い	2	265	69	33	57	52	26	27
	欠席が大変多い	1	100	19	16	25	16	11	13
	平均点		4.57	4.30	4.30	4.42	4.48	4.79	4.58

④ 知識の深まりについて

受講により知識の深まりを感じている学生の割合は比較的高く、全学通年で評価平均は 4.09 であった（表 13-1、13-2、13-3）。平均値 3.0 に比べ十分に知識の深まりを感じていると評価できる。

工学部と大学教育センターの講義でやや低く評価されている点は、昨年と同様の傾向であり改善が求められる。

表 13-1 学生による自己点検アンケート（前期） <知識の深まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 12】知識の深まり この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	大いに深まっている	5	2437	448	246	251	291	832	369
	やや深まっている	4	4177	597	237	461	611	1523	748
	どちらとも言えない	3	958	154	45	101	113	318	227
	あまり深まっていない	2	258	30	11	39	24	91	63
	全く深まっていない	1	126	27	2	13	11	31	42
	平均点		4.07	4.12	4.32	4.04	4.09	4.09	3.92

表 13-2 学生による自己点検アンケート（後期） <知識の深まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 12】知識の深まり この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	大いに深まっている	5	1721	207	123	104	371	876	37
	やや深まっている	4	2911	243	203	274	740	1334	106
	どちらとも言えない	3	634	39	31	98	173	258	33
	あまり深まっていない	2	134	6	7	20	40	56	5
	全く深まっていない	1	72	3	4	13	28	22	2
	平均点		4.11	4.30	4.18	3.86	4.03	4.17	3.93

表 13-3 学生による自己点検アンケート（通年） <知識の深まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 12】知識の深まり この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	大いに深まっている	5	4158	655	369	355	662	1708	406
	やや深まっている	4	7088	840	440	735	1351	2857	854
	どちらとも言えない	3	1592	193	76	199	286	576	260
	あまり深まっていない	2	392	36	18	59	64	147	68
	全く深まっていない	1	198	30	6	26	39	53	44
	平均点		4.09	4.17	4.26	3.97	4.05	4.13	3.93

⑤ 受講時の工夫について

受講するにあたり、個々の学生が自分に適した工夫をしている割合は低く、全学通年の評価平均は 3.51 であった（表 14-1、14-2、14-3）。「行おうと思っている」という回答が最も多い。これは、意欲を持ちながらも、どのようにすればよいのか困惑している状態と判断される。この状態の学生は学修方法を適切にアドバイスすることによって改善する可能性が高い。今後の教育改革における検討課題であり、Cerezo の活用や初年次教育に関する FD 活動も重要である。

表 14-1 学生による自己点検アンケート（前期） <受講の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 13】受講の工夫 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	積極的に行っている	5	1856	374	158	151	176	743	254
	かなり行っている	4	2005	352	147	206	243	770	287
	行おうと思っている	3	2620	335	133	313	414	912	513
	あまり行っていない	2	1025	140	73	143	162	263	244
	全く行っていない	1	439	58	32	53	51	98	147
	平均点		3.48	3.67	3.60	3.30	3.32	3.65	3.18

表 14-2 学生による自己点検アンケート（後期） <受講の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 13】受講の工夫 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	積極的に行っている	5	1373	172	85	82	230	769	34
	かなり行っている	4	1485	113	109	116	355	733	57
	行おうと思っている	3	1727	130	103	185	484	762	56
	あまり行っていない	2	633	49	59	87	201	206	27
	全く行っていない	1	253	33	11	40	85	73	9
平均点		3.57	3.69	3.54	3.22	3.33	3.75	3.44	

表 14-3 学生による自己点検アンケート（通年） <受講の工夫について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 13】受講の工夫 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	積極的に行っている	5	3229	546	243	233	406	1512	288
	かなり行っている	4	3490	465	256	322	598	1503	344
	行おうと思っている	3	4347	465	236	498	898	1674	569
	あまり行っていない	2	1658	189	132	230	363	469	271
	全く行っていない	1	692	91	43	93	136	171	156
平均点		3.51	3.68	3.58	3.27	3.32	3.70	3.21	

⑥ 質問への積極性について

通年全学で質問を行っている学生は 28.2%である。また、「質問はあるが、ほとんど質問していない」「質問すべきことがみつからない」と回答する学生が 48.8%であった(表 14-1、14-2、14-3)。これは、質問の吸い上げ方の好事例を収集して情報提供することで改善できる可能性が高い。

表 15-1 学生による自己点検アンケート（前期） <質問への積極性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	積極的にある程度、質問している	5	1731	369	112	172	198	482	398
	しばしば質問する	4	1063	241	123	151	110	274	164
	ときどき質問する	3	1352	198	145	183	155	452	219
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	3038	367	137	308	479	1258	489
	質問すべきことがみつからない	1	673	77	21	48	99	251	177
平均点		3.02	3.37	3.31	3.11	2.84	2.81	3.08	

表 15-2 学生による自己点検アンケート（後期） <質問への積極性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	積極的にある程度、質問している	5	1168	177	92	102	238	507	51
	しばしば質問する	4	633	82	70	68	95	295	20
	ときどき質問する	3	752	70	75	86	150	352	15
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2384	151	114	209	710	1110	83
	質問すべきことがみつからない	1	486	17	18	45	143	248	14
平均点		2.93	3.51	3.28	2.95	2.68	2.88	3.06	

表 15-3 学生による自己点検アンケート（通年） <質問への積極性について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	積極的にある程度、質問している	5	2899	546	204	274	436	989	449
	しばしば質問する	4	1696	323	193	219	205	569	184
	ときどき質問する	3	2104	268	220	269	305	804	234
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	5422	518	251	517	1189	2368	572
	質問すべきことがみつからない	1	1159	94	39	93	242	499	191
平均点		2.98	3.41	3.30	3.05	2.75	2.84	3.08	

⑦ 学修への意欲の高まりについて

受講による学修意欲の高まりについては平均値 3.0 を上回り、評価平均値は全学通年で 3.84 であった。本学の授業が知的好奇心を喚起していることが示唆されるが、大学教育センターの評価が低くなっている。これは、大学教育センター担当者の問題というよりも、各学部の専門科目に対する大学教育センター配当科目の連携を明確にするなど、改善の必要があると思われる。

表 16-1 学生による自己点検アンケート（前期） <意欲の高まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？	大いに思う	5	1976	392	187	198	238	688	273
	やや思う	4	3503	531	239	385	457	1381	510
	どちらとも言えない	3	1736	225	84	213	258	530	426
	あまり思わない	2	475	64	22	50	66	123	150
	全く思わない	1	246	48	11	20	25	49	93
	平均点		3.82	3.92	4.05	3.80	3.78	3.92	3.50

表 16-2 学生による自己点検アンケート（後期） <意欲の高まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？	大いに思う	5	1381	181	106	92	281	692	26
	やや思う	4	2513	200	169	234	624	1199	79
	どちらとも言えない	3	1183	90	71	130	336	505	48
	あまり思わない	2	264	19	13	29	74	102	25
	全く思わない	1	132	8	9	24	40	46	5
	平均点		3.87	4.06	3.95	3.67	3.76	3.94	3.52

表 16-3 学生による自己点検アンケート（通年） <意欲の高まりについて>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思えますか？	大いに思う	5	3357	573	293	290	519	1380	299
	やや思う	4	6016	731	408	619	1081	2580	589
	どちらとも言えない	3	2919	315	155	343	594	1035	474
	あまり思わない	2	739	83	35	79	140	225	175
	全く思わない	1	378	56	20	44	65	95	98
	平均点		3.84	3.96	4.01	3.75	3.77	3.93	3.50

⑧ 学習の成果について

学習の成果を問うこの設問は、本アンケート調査の究極の設問である。この設問に対して、全学通年で評価平均値が 3.92 であることは高く評価できる。しかしながら、「少し成果は上がっている」という回答が最も多く、もう一步の努力が学生および教員に求められるところである。

表 17-1 学生による自己点検アンケート（前期） <学習の成果について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果があがっている	5	1846	378	174	175	206	631	282
	少し成果があがっている	4	4077	574	273	439	573	1527	691
	どちらとも言えない	3	1536	225	75	187	218	472	359
	あまり成果があがっていない	2	324	43	16	52	39	111	63
	全く成果があがっていない	1	152	35	4	11	11	38	53
	平均点		3.90	3.97	4.10	3.83	3.88	3.94	3.75

表 17-2 学生による自己点検アンケート（後期） <学習の成果について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが 得た成果を5段階で 自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	1328	184	111	93	235	682	22
	少し成果はあがっている	4	2900	251	185	253	750	1346	103
	どちらとも言えない	3	984	49	59	121	286	418	50
	あまり成果はあがっていない	2	168	11	6	25	56	63	5
	全く成果はあがっていない	1	90	3	5	15	29	35	3
	平均点		3.95	4.21	4.07	3.76	3.82	4.01	3.74

表 17-3 学生による自己点検アンケート（通年） <学習の成果について>

質問	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが 得た成果を5段階で 自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	3174	562	285	268	441	1313	304
	少し成果はあがっている	4	6977	825	458	692	1323	2873	794
	どちらとも言えない	3	2520	274	134	308	504	890	409
	あまり成果はあがっていない	2	492	54	22	77	95	174	68
	全く成果はあがっていない	1	242	38	9	26	40	73	56
	平均点		3.92	4.04	4.09	3.80	3.84	3.97	3.75

4. アンケート結果に対する学部・学科の報告書

本学では、学科単位でカリキュラムを編成しており、授業の点検・評価を学科単位で行うことが適切である。平成 26 年度にアンケート調査を実施した各学科の科目について、学科長に報告書の作成を依頼した。以下に各学科より提出された報告書を転載する。

<経済学部 経済学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、経済学科では前期 16 科目、後期 15 科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は 4.39 であり、全項目で平均を大きく上回っており、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。

しかし、総合的満足度を問う設問 8 では 4.10 と、標準値を上回るものの、授業技術等に較べて低い値であった。この原因は、「学生の自己点検」の結果に表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる。学部教授会で学科長から学生目線による授業を引き続き取り組むよう要請した。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：集計結果については、標準値 3.5 を上回る 4.09 であった。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、特に質問 9 授業の準備は 2.94、質問 14 質問への積極性 3.46 と低く、また質問 11 出席状況 4.32 は、全学平均より 0.25 ポイントも低いことは経済学科だけでなく学部全体の特徴が反映していると思える。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは困難なことではあるが、PBL や SGD 等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考える。補習教育などの充実も重要であるが、これらの制度を活用し意欲を培うことも大切である。質問 11 出席状況は、全学平均より 0.25 ポイント低いことは重視しなければならない。欠席が重なり、学修理解が出来ず、留年・退学に至るケースが少なくない。欠席の信号が発せられたら直ちに担任を通して学生指導するよう学部全体で取り組む。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 58.1% であった。学生に対するフィードバックは前期・後期終了までに学科ごとに行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- (1) 教員の記述欄を挿入する。
- (2) 対象の科目の評価結果を記述する。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

授業は学生が理解することが最も重要であることから、次の質問を加えるか、又は入れ替えたらどうでしょうか。

(授業評価)

「この科目は、分かり易い授業ですか。」

(自己点検)

質問 16 (現) この科目であなたが得た成果を 5 段階で自己評価してください。

(変更) この科目であなたが理解できた程度を 5 段階で自己評価してください。

【アンケート時期と対象科目について】

アンケートを前・後期と実施しているが、基本的には全科目（特別な理由があれば後期とする）を前期で実施するのが良いと思う。評価結果を後期の授業に生かすことができる。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学における授業の実施と学生成果に実態を表す結果が得られたと考えている。今後は示唆される問題点解決に向けた改善に取り組む。このため全学で実施するFD研修等には全員が積極的に参加することはもとより、学部学科の研修においても自らのこととして学科を挙げて取り組む。また、実施時に、授業アンケート実施報告書の取扱い、学科単位の報告書について曖昧さを残して実施したため、提出率が58.1%と著しく低かった。この点については改善したい。

<経済学部 国際経済学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、国際経済学科では前期10科目、後期2科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗じ全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.39であり、平均を大きく上回っており、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。総合的満足度を問う設問8では4.09と、標準値を上回る。この原因は、7項目の結果からいって当然であるように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、学科の教員と相談して各自でPDCAを回してもらう予定である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：全学と比較すると、平均で全学以下であるのは、出席状況である。全学が4.58に対して4.36である。出席状況以外ではすべての項目で全学よりも高得点となっている。最大

のポイント差は質問への積極性であった。この理由として、本学科全ての教員が全学の平均以上であり、特に4以上を記録している教員が2名いるためである。また、それ以外の項目中では端的に授業の準備が最も低くて2.83である。

分析結果を踏まえた改善方策：課題は二点あると思う。第一に、最低のポイントである授業の準備について、manaba等を通じて課題配布し学習時間を持たせることを提案したい。第二に、全学の平均以下である出席について、学生が積極的に聞きたいような授業を如何にして展開するかを今後のFD等を通して学科教員に提案していきたい。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックは前期および後期終了までに経済学部全体で行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

(1) 地域調査の場合、次の4時限に間に合うように帰学しなくてはならないために学外調査が実施できなかった。4時限目に変更すれば次の5時限目も使用して現場視察が可能だった。

(2) スマホといった電子機器の鞆への収納を徹底させて集中度を高める。

(3) iPadを全員に持たせての授業が望ましい。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

「質問9」は、全教員が同時にこれを実施できるとは考えられない。必修科目のような重点科目についてのみこの項目に答えるようにするのはどうか。

【アンケート時期と対象科目について】

アンケート時期については、現状は講義の終わり頃に実施して学生に対してフィードバックしている。講義の最終回とか試験中に実施するとフィードバックができなくなる。成績評価を学生が見てその時点でアンケートするということも考えられる。成績評価前と後では評価が異なるように思う。

対象科目については、現在は全教員が1科目行っているが、複数科目実施すればどうなるか、ゼミは実施し難いがやってみる意義は高そうである。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学科における授業の実施と学生成果の実態を表す結果が得られたと考えている。本学科の教員の得点は全学と比較して高かった。現状を維持しつつ、学生の出席意欲を向上させる点を学科の個々の教員と相談したい。

<経済学部 税務会計学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、税務会計学科では前期 11 科目、後期 1 科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。質問 2 の「話し方」以外は、すべて全学平均を上回っており、本学科教員の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。

分析結果を踏まえた改善方策：「話し方」については、特定教室のマイクの故障もあり、数回にわたり修理を依頼している。また、授業進行のペースを落としたり、パワーポイントを多く使用したり、専門用語の事前説明の回数を増やしたり、ゆっくりと話すなどをして学生の理解度を高めていく。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：質問 10 の「集中力」と 11 の「出席状況」が全額平均よりやや下回っており、講義環境の維持や出席率の確保に力を入れる必要があると感じられる。とくに講義中の私語が多いことは多くの教員に指摘されている。

分析結果を踏まえた改善方策：学習意欲の向上が最も重要課題である。事前予習を促し、多様な講義方法を試行錯誤しながら、私語を厳禁するなど徹底すること。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは前期および後期の定期試験までに当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を

以下に要約する。

- (1) TA の制度が整備されれば、学部全体の授業の質や学生の満足度が上がると考えている。
- (2) タブレット端末を学生全員が持ち、いつでも自由に教員に相談できる体制を確立させる。
- (3) 必修科目を中心に授業アンケートを実施する必要がある。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

特になし

【アンケート時期と対象科目について】

適切

【総括】

今回のアンケート調査では、基本的に学科の実態を表す結果が得られたと考えている。ただ、マイクやパソコンなどの設備の老朽化に伴う講義への悪影響もあり、直ちに対応すべきだと考えられる。また、比較可能性を高めるために、必修科目をはじめ、できるだけ受講者人数の多い科目を対象科目にすべきであると考えられる。

<人間文化学部 人間文化学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、人間文化学科では前期 4 科目、後期 4 科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析: 質問 8 項目中 7 項目において全学平均点を上回っている。授業進め方の平均 4.56 (分布 5~4.2)、話し方の平均 4.61 (分布 4.88~4.4)、計画性の平均 4.62(分布 4.86~4.37)、授業時間の平均 4.63 (分布 4.88~4.50)、講義の工夫 4.41 (分布 4.79~3.60)、質問への誠意の平均 4.47 (分布 4.83~4.00)、満足度の平均 4.00 (分布 4.43~3.20)である。しかし、難易の適切性については、平均が 4.06 (分布 4.63~3.20)と全学平均を若干下回った。また、講義の工夫と満足度に関しては教員間で平均値の幅が大きくなっている。

分析結果を踏まえた改善方策: 本学科の教員の授業実施については、全般的には大きな問題はな

い。日ごろの教育実践が受講者に好意的に受け止められている。今後ともこの努力を惜しむことなく継続していくことが必要である。教員間で差が出た講義の満足度と工夫については、学科での検討課題として共有し、シラバス作成準備時に情報を持ちあい検討することも改善につながると思われる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：質問8項目中全学平均を上回ったのは3項目のみであった。知識の深まり平均4.20(分布4.50~3.80)、意欲の高まり平均3.84(分布4.38~3.48)と学修成果平均4.00(分布4.43~3.60)である。その他の項目では全学平均を大きく下回った項目はないが、全般に低い数値となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：授業の準備と質問への積極性は全学の学生同様本学科の学生においても低い数値を示しているが、これは予習や復習不足から来る授業参加への積極性の欠如であり、受講の工夫の低下を引き起こしている。シラバス作成時に講義の目的、目標、内容、各週における課題等について、わかりやすく記述するようにしているが、記述方法について再度検討すると同時に、科目を選択する際にシラバスを熟読して、授業に臨むように学生に徹底させることも重要である。学科の性格上系統的な知識を講義することは避けられないが、学生の発表、討議などを取り入れて学生の学習意欲を高め、積極的に学習に取り組む姿勢を築きたい。中学校・高校で学習への基本的な態度が出来ていない学生が多いので、「おもしろい」「楽しい」「わかりやすい」などの要素を入れた授業内容にすることも必要。

【教員へのフィードバックについて】

学生のアンケート結果を全学科教員に公表はしていないが、該当する担当教員にはアンケート報告書の作成を求めた。提出率は100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

全ての教員が授業中にアンケート結果の概要を説明し、改善点を学生と話し合った教員もいる。

【学科教員からの提案、意見】

特記事項なし。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

特になし。

【アンケート時期と対象科目について】

実施時期が早すぎるために、授業全体の学生評価になっていない。半期の授業修了の近くに行う授業内容がアンケートに反映されないことが起こり得る。アンケートの対象をすべての担当科目に広げる。授業の形態が異なるので各教員一科目では実態がわからない。

【総括】

今回の授業評価と自己点検アンケートでは、学生の自己評価が3項目を除き、すべての項目でや全学平均を下回る結果となった。学習意欲を高め、それを持続していく方策を学科において緊急に打ち出す必要を痛感する。授業の相互参観などにより、授業の実践面での質をどのように向上させるか、学科教員全体の問題である。

<人間文化学部 心理学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、心理学科では前期 6 科目、後期 4 科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は 4.57 であり、全学平均を大きく上回っており、本学科教員の進行、話し方、計画性、時間、講義の工夫、質問への誠意、難易の適切性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。また、総合的満足度を問う設問 8 も 4.32 と全学平均 3.96 を大きく上回っており、学生から十分な支持を得ていると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準より高い評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。なお、全教員が目標とする満足度 4.3 点以上になるように、学科会議でそれぞれの授業での工夫を共有することで改善を目指した。但し、満足度には、教科の難易度、課題の負荷と負の相関があるように思われ、個々の教員のみでの責任とは判断できない。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：集計結果については、学生の自己点検の平均は 3.90 であり、全学平均 3.65 を上回る結果であった。平成 23 年度の 3.44、平成 24 年度の 3.62、平成 25 年度の 3.87 から毎年徐々に改善されている。しかし、教員への授業評価の高得点を考えるとその差は大きく、これは教員側の学修のための情報提供が十分でなく、課外学習が行われていないことと、授業に対する学生の積極性を引き出せていないことが原因として考えられ、今後一層の改善を図る必要がある。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学修の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。そのため、学科会議において学生の自己点検の高い教員に聞き取りを行い、効果的な学修方法について情報共有した。毎回の授業の最初と終わりに小テストを行う方法、そのために次回までに行ってくる課題を提示することが効果的であることが分かった。なお、来年度シラバスの各時間に予習の課題を書くこと（全学決定事項）、あるいは、授業で次回の課題を指示することを実施する

こととした。また、manaba を利用した時間外の学習にも力を注ぐこととした。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回において、当該授業科目担当教員が行った。なお、学生へのフィードバックの方法は、心理学科では各教員にまかせている。多くの教員が各項目の平均点を、大学全体、学部、学科、当該授業と並べて説明、授業もしくは試験の際に PPT などを用い、口頭で報告と解説を行っていた。その詳細は提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

(1) 「質問への誠意」が高いのは、ミニツツペーパーに回答するからであり、本来は授業内での対話を増やしていきたい。質疑応答の時間を増やしたい。質問用紙を A4 にしたことで質問と回答の双方向伝達が十分にできた。

(2) グループディスカッションを授業で導入しているが、事前に議題を伝え予習をして臨むようにすることで、授業準備時間も増やせるのではないだろうか。準備学習の取り組みを高めることで、より高い学修成果が得られるはずである。

(3) アクティブ・ラーニングをするにあたって、その内容と理由について説明し、どのような態度で臨むべきかのオリエンテーションを行った。自分たちが何をしているのかということについて理解を促すことは学修成果を進展させている。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

「質問9」は、選択肢を「必ず行う」などの選択肢を改め、「30分未満」「30分～1時間未満」のように具体的な時間に変更する。

【アンケート時期と対象科目について】

アクティブ・ラーニングを全15回で展開している授業では、アンケート時期は15回終了時が望ましい。その他は特に意見無し。

【総括】

今回のアンケート調査は、本学における授業評価と学生の自己点検の実態が明確となったと考えられる。心理学科の課題は、学生の積極的な授業への取り組みと時間外の学修時間の確保である。これらに対しては、上記のように評価の高い教員の方法を学科FDで共有して改善したい。また、学修時間の確保に関しては、Cerezo を有効活用することを学科で積極的に進めたい。

心理学科では、今回の調査対象としていない、実験実習、統計演習などの理数系の科目があり、もともとが文系志向で入学してくる学生のギャップとなっている。しかし、大学院生によるピアサポーター制度やグループ内での学び合いによる学修成果も現れており、このようなメンター制度をより機能させることが、かえって心理学を学ぶ学生の進路にも好影響を与える可能性もある。ただ

し、これらの科目のアンケートは行っていないため、講義科目以外の授業評価と自己点検も必要と考える。

今年度「心理学検定」を3年次生全員が受験して、2級を目指すという取り組みを行った。一部授業では試験対策も意識してその科目の合格率は高くなっていた。このような対策も講義成果をあげ、第三者の評価を受けることで、学修への自主性と将来のキャリアに関する自信や方向付けを高めることができると期待する。

<人間文化学部 メディア情報文化学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、メディア情報文化学科では前期9科目、後期4科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.34である。授業技術と講義内容は平均的に高いレベルを有していると判断できる。ただし、難易度の適切性については低い数値の科目がいくつかあり、学科内で難易度等の情報共有と調整が十分でない可能性もある。総合的満足度を問う設問8では3.99であり、授業技術等に較べて低い値であった。受講の成果に対する評価軸（授業のねらい等）を明確に理解させることができていない可能性がある。他の原因として「学生の自己点検」の結果からも読み取れる受講準備の不足や不十分な受講の工夫も挙げられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は概ね良好な評価をしている。ただし、難易度の適切性については十分には満足していない可能性を示す結果である。各科目の教授項目は学科カリキュラムで設定し共有したものである。したがって、やりがい、手応え、将来の有用性を学生が感じられないという点は、年度始めのオリエンテーションや授業の中で、実社会と授業項目の関わりの説明を十分に行うことで改善が見込まれる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：授業の準備、集中力、受講の工夫、質問への積極性、意欲の高まりの各項目の学科平均値は低いといえる。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果とも考えられるが、授業のねらい等が授業の中で明確に示せていない可能性や事前学修等の授業の準備の具体的な指示が不十分であった可能性がある。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が必要を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。年度開始時の学科オリエンテーション等でカリキュラム全体の概要と各科目の関係を理解させる等の履修登録前の指導を充実させることも有効策の一つと考えられる。また、準備学修等の具体的な例示により授業時間外の学修機会の増加により自ら学ぶ態度の改善が期待できる。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果のある非常勤講師を含む学科教員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは多くの科目は講義中に当該授業科目担当教員が口頭にて行った。講義最終日に集計結果の報告が間に合わなかった5科目はゼルコバの“あなた宛のお知らせ”機能を用いて、文書にて学生へのフィードバックを行った。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- (1) 授業中の集中力を高めるためにも、予習と連動させた授業づくりが必要である。
- (2) 実際に企画を実現することで満足度が上がる（授業のみではなく、その後の活動行動の変化を含めた調査も必要ではないか）

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

「質問9」は、選択肢を「必ず行う」などの選択肢を改め、「30分未満」「30分～1時間未満」のように具体的な時間に変更する。

“総合的な満足度”の項目に違和感がある（判断基準を作りにくいのではないかな等）。

【アンケート時期と対象科目について】

当該授業のその年度中の改善を目的として前半にも一度アンケートを実施したほうがよいのではないかな。

教員評価のために授業の効果等を集計するためのアンケートは講義期間終了後に実施するほうがよいのではないかな。

他のアンケートも含め、学生への協力依頼が多すぎるようにも思える。

【総括】

アンケート調査では授業の実施状況と成果の実態を表す結果が得られたと考えている。示唆される問題点解決に向けて改善を行いたい。次年度のシラバスについては、学科会議にて事前学修の項目を追加と授業のねらい等を精査するなど対策の一部を開始している。

<工学部 スマートシステム学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり原則1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、スマートシステム学科では前期8科目、後期5科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.26であり、全学平均（4.30）をやや下回るものの、学部平均（4.18）を上回っており、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は良好と判断できる。更に、昨年（4.20）も上回り、授業技術が向上しつつある事を示唆している。内訳をみると、【質問7】難易の適切性は4点台を維持しているものの、学内平均、学部平均が昨年より上昇する中で昨を下回る。逆に、【質問6】質問への誠意が昨年を0.16ポイント上回る（4.17）。総合的満足度を問う質問8では3.87と、授業技術に比して低い結果を示している事も鑑みて、学力不足に喘ぐ学生の姿が垣間見られる。この原因が学修意欲の維持の難しさにある事が「学生の自己点検」の結果から推測される。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、これに加えて、学生の学修意欲を継続させるための方略を考える必要があると言える。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：集計結果については、全学平均、学部平均が昨年より上昇あるいは昨年値を維持する中で、昨年評価を下回る3.49となった。これは、標準値3.5を下回る。内訳をみると、「授業の準備」、「受講の工夫」が昨年を上回る以外、昨を下回り、特に「集中力」「知識の深まり」「学習の成果」では0.1ポイント以上低下している。評価対象科目が座学であることから、学生たちは、まじめに授業（座学）を受けようとするも、学修意欲を維持する事に腐心しているものと推定している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。近年の傾向として、実習等の座学以外に意欲的に臨む学生が多い。PBLやSGD等のアクテ

ィブ・ラーニングやゲーム性のあるような新しい教育方法を取り入れることが有効策の一つと考えられる。ITC の活用を積極的に考える必要がある。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックは各期終了までに学科ごとに行った。また、後期調査結果が公示された時点で前期分も併せて学科全教員の結果を相互に開示し学科の傾向を分析している。

【学生へのフィードバックについて】

(記述例) 学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書(添付)より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

学生の学修モチベーションを向上させ維持する教授手法の研究、習得の必要性を痛感。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

「質問9」は、選択肢を「必ず行う」などの選択肢を改め、「30分未満」「30分～1時間未満」のように具体的な時間に変更する。

【アンケート時期と対象科目について】

座学ではない学修で大学での学び(成長)を感じている学生も多い実感がある。実験、実習に関するアンケートも別途行うべきであろう。また関連して、ゼミでの活動や卒業研究等はこの調査では測りにくく、一方で大学での学修で最も重要かつ成果の高い学修システムであると思われるので、これを測る手段を持つことも必要であると思われる。(卒業生アンケートでは4年間全体を見渡すのでゼミ、卒業研究での成果に不感となる恐れがある。)

【総括】

今回のアンケート調査では、本学における授業の実施と学成果に実態を表す結果が得られたと考えている。今後は示唆される問題点解決に向けた改善を求めたい。各教員の努力により授業技術などに関する評価は年々上がっている半面、授業の理解度や興味の持続に関しては覚束なくなりつつある。先にも書いたが、教員は学修のモチベーションを維持する自身の教授手法の研究や習得が必要となり、学生に対する学修方法の指導、継続や持続の大切さなど、本来であれば初等教育で身につけておくべき心得を粘り強く伝える必要があると感じている。さもなければ、学修時間を確保したことが仇となる可能性がある。

<工学部 建築学科>

建築学科では、前期10科目、7名の教員、後期2科目、2名の教員が授業評価アンケートを実施した。複数科目のアンケートを実施した教員は2名の新任教員であり、それぞれ2科目、3科目を実施し、初年度の好ましい対応として評価できる。

各教員の授業評価アンケート結果については例年同様に、前期、後期ともに学科内で情報を共有し、各教員が改善策を検討し学生へのフィードバックを行った。

学科全体と全学との平均値の比較では、前期の場合、「時間」、「授業の工夫」がやや下回り、「授業の準備」、「質問への積極性」がやや上回り、他の項目はほぼ同程度であった。後期の全学平均値との比較は、「計画性」、「集中力」、「出席状況」、「知識の深まり」、「学習の成果」について全学平均を下回っている。ただし、回答率については、必修科目、選択科目による差はあるが、学科平均が前期は85.1%、後期が80.9%で全学平均よりやや高い。当学科では、今年度から欠席、遅刻の扱いについて、学科内の全教員が学科共通の統一基準をもとに出欠管理を行っているために、出席状況や回答率について昨年度より多少の改善がみられる。

「講義の満足度評価」に対する評価として、全学平均以上の科目は、前期では10科目のうち4科目（昨年7科目のうち5科目）であり、後期では2科目のうち1科目であった。「学習の成果」に対する評価では、全学平均以上の科目は、前期では10科目のうち5科目（昨年7科目のうち5科目）であり、後期では2科目のうち1科目であった。全学平均値以下の科目については、今年度の授業評価結果をもとに来年度に向けた授業改善を期待したい。また、昨年同様に「講義の満足度評価」と「学習の成果」の評価点はほぼ同程度の評価点であり、科目による大きな差はなく、連動した評価値となっている。科目別にみると、製図等の実習系の科目は、学習成果が視覚的にも確認しやすく、評価値が高い傾向がある。その一方で、数式や数値計算等を扱う力学系の科目の評価値がやや低く、文系入試も導入している当学科としての今後の課題である。その対策として、今年度は1年次生に対して理数系の事前学習的な対応も一部行っており、来年度以降の効果を期待したい。また、複数年継続して実施されている科目については、評価値が高く、変動も少なく、上限値に近い評価値の可能性もあるが、今後の対応として、さらに評価値を上げるために講義の難易度を下げることが避けるべきである。「学習の成果」の検証方法については、現在学科内で検討中であるが、学生による自己評価としてのアンケート結果とともに、定期試験の結果等を考慮して最終的成果に対する評価検証を検討する予定である。また、授業評価結果は、学生の授業に対する取り組み姿勢や学習意欲に影響を受け、個々の授業科目に対する改善だけではなく、PBL教育等を組み込みながら学科全体として総合的な対応を行っていく必要がある。

<工学部 情報工学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、情報工学科では前期5科目、後期6科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部(リョービスシステムズ株)に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し、全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.28であり、全学平均の4.30とほぼ同じであり、基準値3.5を大きく上回っており、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。また、総合的満足度を問う設問8では3.96と、全学平均3.96と同じであり、基準値3.5を上回るものの、授業技術等に較べて低い値であった。この原因は、「学生の自己点検」の結果に表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は基準値以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。なお、一部の教員に、基準値3.5を下回る項目が見られるため、次年度の教室会議等でカリキュラムの再確認を含めて原因を究明する。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：授業の準備に関する7項目は、学生の授業への取り組み方の設問と授業への意欲を問う設問で構成されている。集計結果については、全学平均の3.61を下回る3.45であった。また、学修の成果では、全学平均3.93に対して、学科平均は3.84とやや下回っている。分析結果を踏まえた改善方策：特に、授業への集中が劣っているため、受動的な講義に留まらず、準備学修の成果を学生が発表をするようなアクティブ・ラーニングを増やしていくことで改善したい。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、速報として、各教員に伝えたほか、教室会議で全学科教員全員の結果を公表し、改善方法を検討した。なお、アンケート結果に関する報告書は非常勤講師も含めて全員提出している。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは残りの講義内にて当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書(添付)や教室会議の議論により、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- (1) 本格的なフィードバックは次年度で行う。
- (2) 試験内容も含めてアンケートを実施するほうがよい。
- (3) 選択科目の方が必修科目に比べて評価が高くなる傾向があるのではないかと。1科目ではなく、複数科目(できれば全科目)でアンケートを実施した方がよい。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

質問の 1～6 は評価対象が教員であるのに対して、質問 7、8 は評価対象が科目にある ように受け取られる。教員に対するアンケートなのか科目に対するアンケートなのかがはっきりわかる文章に改めた方がよい。

【アンケート時期と対象科目について】

定期試験終了後が望ましい。また、対象科目も全科目が望ましい。

【総括】

今回のアンケート調査では、昨年度に引き続き授業の準備の結果が大変悪かった。来年度からはシラバスに準備学修を明記することになったので、その内容を学生に確実に指示することで、学修の成果の向上につなげたい。

<工学部 機械システム工学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、機械システム工学科では前期 5 科目、後期 4 科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。この 7 項目について、3.59～4.60 まで分布している。全学平均と学科平均を比較すると、前期結果の「進行」、「時間」、「難易の適切性」が上回っているものの、残念ながら、その他は全学平均を下回る結果となっている。総合的満足度を問う設問 8 でも、前期・後期とも、学科平均は全学平均に及んでいない。

分析結果を踏まえた改善方策：比較的高評価を受けている授業もあるが、全体的に理系特有の理論や数式を扱う授業も多く含まれ、授業技術、授業手法の改善・向上に取り組む必要性が高いと考えられる。一部教員について、授業に新しい方法を積極的に取り入れながらも評価の低いケースがあったが、学科長が当該教員と面談を行い、改善努力を促した。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析: 全学平均と学科平均を比較すると、学科平均が全学平均を上回ったのは次である。前期結果の「出席状況」、「知識の深まり」、「質問への積極性」、「意欲の高まり」、「学習の成果」、後期結果の「出席状況」。昨年結果では、上回るものがほとんどなかったが、今年度は、改善されて向上した。

分析結果を踏まえた改善方策: アンケートの実施科目は、学科の専門性から考えてどれも非常に重要である。その重要性や必要性を充分説明、理解させ、学修の動機づけをしっかりと行うようにしたい。また、学科全体として共通的な授業科目のいくつかにおいて、学生が主体となり、授業に参加できるように、アクティブ・ラーニングの導入を進めるように計画している。これまで導入済みの授業と合わせて、アクティブ・ラーニング化の比率を高めて行くように努力したい。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックは、全教員が行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、アンケート結果取得直後の講義時、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。各学科教員は、それぞれの結果を真摯に受けとめ評価している。それぞれの場合に応じて、これからの対応を検討したり、既に実行したりしている。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- (1) ICT等を活用したビジュアル・インタラクティブな授業の実施。
- (2) 演習課題による学修効果の向上。
- (3) 授業時間外の学修時間確保と主体的な学修への転換。
- (4) 反転授業等の実施。
- (5) 準備学修の指導。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

「質問9」は、選択肢を「必ず行う」などの選択肢を改め、「30分未満」「30分～1時間未満」のように具体的な時間に変更する。これ以外に特に意見はない。

【アンケート時期と対象科目について】

当然のことながら、アンケートは15回の全授業が終了してから行う方が適切と考える。しかしながら、進行中の授業へのフィードバックを考慮すれば、途中で行うしかない。どちらが良いかについては、判断しかねる。

【総括】

前記したとおり、「学生の自己点検」の結果において、昨年では、全学平均を上回るものがほとんどなかったが、今年度は、大きく改善されて向上した点が評価できると考える。しかしながら、こ

これらの結果は、実習比率の高い授業の結果に支えられているのが実情である。CAD 教室などを使用する実習型授業は、機械設計教育プログラムの中心的授業ともなっており、継続的にアクティブ・ラーニング化の取り組みを行って、評価を高める方針である。一方で、数式や論理的内容を多く含んだ座学型授業において、アクティブ・ラーニングをどのように導入し、学修成果の向上を目指すのかが今後の重要項目である。

<生命工学部 生物工学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、生物工学科では前期 8 科目、後期 7 科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

】 調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：進行、話し方、計画性、時間、質問への誠意に関しては、学科平均がいずれも 4.0 を越えており、授業技術は妥当であると考えられる。しかしながら、講義の工夫、難易の適切性、講義の満足度などの授業内容に関しては、学科平均がいずれも 4.0 以下であり、改善の余地がある。

分析結果を踏まえた改善方策：授業内容に関しては今一度再考して、学生にとって魅力のある授業を組み立てる必要があると考える。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：出席状況、知識の深まりに関しては、学科平均がほぼ 4.0 以上であり、学生の授業への取り組みは妥当であると考えられる。しかしながら、授業の準備、質問への積極性に関しては、学科の平均が 3.0 を下回っており、授業や教員に対する積極性が乏しいと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、PBL や SGD 等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員に対して集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教

員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は93.3%であった。学生に対するフィードバックは授業終了までに教員ごとに行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

授業評価アンケートの内容やシステムについての意見は特になかった。ただし、前期の授業評価アンケートの集計結果が遅延したことに対する苦情があり、学生へのフィードバックに支障を来したと口頭での申し出があった。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

[質問 14]質問への積極性は、[質問 6]質問への誠意と密接に関連している。質問が出なければ、教員は対応しようがない。もちろん、質問できるように促すことは重要であろうが。

【アンケート時期と対象科目について】

特になし。

【総括】

生物工学科教員に対する授業評価アンケートの集計結果に関して、16の項目のうち、15の項目において、学科の平均点は全学の平均点を下回っている。については、学生の学修を向上させるような授業に転換していくことを求められていると考える。特に、講義の満足度の平均点が3.78という低い点数にとどまったのは反省の余地がある。生物工学科では、カリキュラムの変更やシラバスの作成において討議しているが、より実質的な議論を展開することが必要であろう。

<生命工学部 生命栄養学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、生命栄養科学科では前期6科目、後期7科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗じ全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の学科平均は全学平均とほぼ同様であった。本学科教員の進行、話し方、計画性等の授業技術は本学の平均的レベルを有していると判断できる。ただし、詳細にアンケート結果を見てみると、進行、話し方、講義の工夫が前期の科目の平均で低く、後期の科目で高かった。総合的満足度を問う設問8でも前期の科目の平均が3.77と全学の平均3.95を下回っていたのに対して、後期の科目の学科平均は4.00と全学平均の3.97と同等であった。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準的な評価をしているが、前期と後期科目では評価が分かれており、今後、前期の低い評価の科目などには改善努力を試みる予定である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、学生の自己点検を問う7項目のうち、本学科の授業の準備、質問への積極性の平均が全学の平均を平均すると0.5ポイントほど低かった。その他の学生の自己点検を問う設問に対しても、出席状況を除くすべての項目において、全学平均を僅かではあるが下回っていた。本学科の学生の資質と気質が反映していると推定している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生の自己点検の項目で、授業の準備、受講の工夫、質問への積極性が特に低い評価であったことは、学生の予習や受講に問題があることを意味しているので、今後、各教員に予習させる工夫を依頼する。さらに、学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、PBLやSGD等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。さらに、本学科では国家試験対策の補習授業を、4年次生を中心に取り組んでいるが、より低学年から自ら学ぶ態度を身につけさせるために、低学年からの補習授業を行い、さらなる充実を目指す。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- (1) 疑問に感じる、分からないことが分かることが、質問という行動に移り、理解を助けることになるので、小テストや中間試験などで理解が十分でない学生をスクリーニングし、学習を補うことが必要である。
- (2) 学生の自己点検の授業の準備が低評価であったことから、簡単な課題を出すなどして、講義だけでなく、家庭でも勉強する習慣を身につけさせることにより、学

習成果が上がると考えられる。

- (3) 講義中に質問しやすい環境を作ることが、学習成果向上に繋がると思われる。
- (4) 授業で修得した知識を現場との繋がりを意識しながら、知識や技能を活かせるように進展させる。
- (5) 1年次生から課題解決型の授業を展開していく学科の取り組みが必要である。
- (6) 学生に調べておいて欲しい内容、読んでおいて欲しい本について、教員で記入書式を作成して、記入したものを学生に配付するなど、ある程度強制的に実行させるように取り組む必要がある。
- (7) 授業時間ごとに確認テストを行う。
- (8) 次回の講義の予習問題を宿題にする。
- (9) 授業が分かると楽しいという実感を持つ学生を増やすために、わかりやすく丁寧に解説する。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

特になし。

【アンケート時期と対象科目について】

現行のままでよい。

【総括】

今回のアンケート結果は、昨年度の結果と全体の傾向は同様である。いかにして、学生の学習意欲をより低学年から高めるかが管理栄養士の国家試験の受験者数や合格率に直結すると考えられるので、学生の低学年からの本当の実力を身につけるための意欲向上と学習の実践が実現することを目指す。

<生命工学部 海洋生物学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、海洋生物科学科では前期6科目、後期10科目（夏季休暇期間に実施した集中講義2科目を含む）について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する8項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。8項目の学科平均値は前期科目で4.35、後期科目で4.16であり、全学平均値のそれぞれ4.25、4.27と比較すると前後期通算では全学平均値とほぼ同等と判断できる。

分析結果を踏まえた改善方策：基礎的な内容の科目における「講義の満足度」の値が低くなっている傾向が見受けられる。この傾向は以前から見られるものであり、担当教員がそれぞれに工夫を行っているものの未だ大きな改善傾向は見られていない。現在、平成29年度から適用する新しいカリキュラムの策定作業を開始しているが、その中で基礎的な科目の位置付けや授業方法・内容について分析と検討を進め、この点について改善を図りたいと考えている。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：特に重要と考えられる「知識の深まり」、「意欲の高まり」、および「学習の成果」の3項目において、前期科目では学科平均値が全学平均値を上回り、後期科目ではその逆という、前項と同様の傾向がみられた。

分析結果を踏まえた改善方策：こちらでもやはり基礎的な内容の科目が学科平均値を下げる結果となっている。但し、毎講義時に前回学んだ内容に関する小テストを実施した専門基礎科目「化学Ⅰ」において、「授業の準備」と「学習の成果」の2項目では全学平均をかなり上回る値が得られたことは、授業時間外の学修を誘導することにより学修成果の改善を図ることができる可能性を示す結果と捉えている。この結果も踏まえて、新しいカリキュラムの策定の中でそれらの科目の授業内容・方法の検討を進めたいと考えている。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果については、本学科の専任教員全員に対して学科の全科目に関するデータをフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は88%であった。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは、集中講義として実施している非常勤教員の担当科目を除いて、講義最終回までに当該授業科目担当教員が行った。その詳細は各教員から提出された報告書に記載されている。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 講義内容を実験実習の内容とリンクさせ、より実践的な技術につながる講義内容として、学生の学習意欲を向上させたい。
- (2) 学生の自主性を喚起するため、学生自らが資料を作り、講義に臨むような状況を作って

いくことが重要と考える。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

「質問への誠意」の項目で、質問をしに来ていない者が「どちらとも言えない」などと回答している可能性が大いに考えられる。「質問をしたことがない」という点数外の選択肢を入れる必要があるのではないだろうか。

【アンケート時期と対象科目について】

アンケートの実施は、本来それぞれの科目の内容を全て教え終わった時点、すなわち学期末に実施すべきではないだろうか。フィードバックについては、次の学期の冒頭に対象学年に対して実施するという方法でも特に大きな問題はないと考える。

【総括】

本学科の授業に関するアンケート結果はほぼ全学平均並となっており、授業の方法や内容に大きな問題は生じていないと判断できるが、基礎的な内容の科目については方法・内容に一層の改善が必要と考えている。

<薬学部薬学科>

【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、薬学科では前期30科目、後期24科目について調査を行った。

【アンケート調査内容】

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【調査結果の集計】

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【調査結果に対する点検】

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.31であり、全学の平均と比べほぼ同程度であり、本学科教員の授業の進行、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを保持していると判断できる。また、総合的満足度を問う設問8も全学の平均と比べほぼ同程度の3.95であり、授業技術等に比べやや低いものの、薬学教育は国公立薬学部共通の薬学教育モデルコアカリキュラムの実施に加え、より新たな一層多岐に渡る分野と深度が要求されているところ鑑み、十分な高値を示していると思われる。またこの原因の一端は「学生の自己点検」の結果に表れ

ているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準値以上の評価をしているが、新年度からの全国一斉に導入される新たな改訂教育モデルカリキュラムに対応するためにも、今後もより一層の改善努力を試みる予定である。一部教員についての自由記述などについては妥当な指摘と判断されたものについては、学科長が該当教員に改善努力を口頭で促した。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：集計結果については、いずれの項目も前後期ともに全学の平均値とその高低も含め、ほぼ同じであった。特に授業の準備や質問への積極性については、全学の平均値よりやや高いものの標準値 3.5 を下回っており、大変遺憾である。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、改善の必要性が高い項目と思考している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の基本である事前・事後学習の必要性を実感し、自ら学ぶ姿勢を強く自覚する必要がある。この改善は重要であるが、大変難題でもある。この改善の方策として、来年度からはほぼすべての教科のシラバスに事前学習の指示が明示されており、これに基づく学修態度を推進するのも一法である。そのため PBL や SGD 等に加え、さらに異なる教育手法を取り入れることも有効と考えられる。また、補充教育、メンター制度の活用などの制度の充実・広報とともに、教員がその活用を積極的に学生指導することも重要と思考する。

【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。学生に対するフィードバックは前後期、それぞれ終了までに学科ごとに行った。

【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義の最終回時、または定期試験期間を利用して当該授業科目担当教員が行った。その詳細は提出された報告書に記載している。

【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 質問数を絞り、少なくする。
- (2) 質問内容を絞り、より具体的な意見を導きやすいように改善する。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

[質問 3]：シラバスを読んでいる学生が少ない現状をと思われるので、この質問の前に「この教科のシラバスをしっかりと読んだことがありますか」との質問に回答させた上で、「Yes」の学生について [質問 3] をするように改訂する。

[質問 6]：前期あるいは後期の授業期間中で十数名程度の学生にしか質問に来ないのも関わらず、授業評価におけるこの質問においては、受講生全員から「高評価」を受けているが、

データの信頼性には疑問がある。ついては、この質問の前に「この教科について質問したことがありますか」との質問に回答させた上で、「Yes」の学生について [質問 6] をするように改訂する。

[質問 10] : この質問について、より正確な分析を行うため、質問を「授業に集中できていますか」と変更し、「できていない場合の理由」を自由記載にさせるよう改訂する。

[質問 12] : この質問を「この講義を理解するために何か工夫していますか」と変更し、工夫の内容を自由記載させるよう改訂する。

【アンケート時期と対象科目について】

アンケートの時期については1科目を複数の教員で実施している場合もあり、フレキシブルに実施できるように要望する。

【総括】

今回のアンケート調査では、本学科における教員の授業への取り組みとそれに対する学生の評価また学生の学修に対する自覚・態度の実態を反映した結果が得られたものと考えられる。教授手法は全学的にもまた薬学科としても高水準に向かっているものの学生の学修への取り組みが低迷している。今後、教員は授業手法とともに、学生の好奇心や探究心を育み、学習意欲を促進していく教育を併せて実施することが肝要と思われる。

5. 学生の学修時間に関する調査結果

授業評価アンケートの「質問9」は、「この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？」に対して、「必ず行う」「ほぼ行う」「ときどき行う」「あまり行わない」という抽象的な選択肢であった。そこで、大学教育センターでは、学生の学修時間に関するより具体的な実態調査を実施したのでその概要を以下に記す。

(1) 調査期間

2014年6月30日(月)～2014年7月19日(土)

(2) 調査方法

専任教員に対し、下記枠内の質問を前期担当の講義科目の中で受講生に回答を求め(各教員原則1科目)、その結果を学科長等が集約して教育開発部門長へ提出した。なお、質問は出席カード、ミニッツペーパー、小テストなどの紙面に含めるなど、実施方法については担当教員に一任した。

【質問】 この授業に関して、1回の講義あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか。最もあてはまる数字に○印をつけて下さい。

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| 1. 3時間以上 | 2. 2～3時間未満 | 3. 1～2時間未満 |
| 4. 30分～1時間未満 | 5. 30分未満 | |

ご協力ありがとうございました。

(3) 調査結果

1. 調査対象科目数及び回答者数

調査対象科目数は156科目、回答者数は延べ8,273名であった。

2. 全学の学修時間の結果

表1に全学の集計結果を示す。

表18 全学の学修時間集計結果 (n=8,273)

集計項目	3時間以上	2～3時間未満	1～2時間未満	30分～1時間未満	30分未満
人数	116名	250名	972名	2,231名	4,704名
比率	1.4%	3.0%	11.7%	27.0%	56.9%

3. 各学部及び大学教育センターの学修時間の結果

経済学部(表2)、人間文化学部(表3)、工学部(表4)、生命工学部(表5)、薬学部(表6)、大学教育センター(表7)別の集計結果を示す。

表19 経済学部の学修時間集計結果 (n=880)

集計項目	3時間以上	2～3時間未満	1～2時間未満	30分～1時間未満	30分未満
人数	23名	30名	81名	220名	526名
比率	2.6%	3.4%	9.2%	25.0%	59.8%

表20 人間文化学部の学修時間集計結果 (n=709)

集計項目	3時間以上	2～3時間未満	1～2時間未満	30分～1時間未満	30分未満
人数	11名	36名	106名	233名	323名
比率	1.6%	5.1%	15.0%	32.9%	45.6%

表21 工学部の学修時間集計結果 (n=939)

集計項目	3時間以上	2～3時間未満	1～2時間未満	30分～1時間未満	30分未満
人数	25名	20名	68名	187名	639名
比率	2.7%	2.1%	7.2%	19.9%	68.1%

表22 生命工学部の学修時間集計結果 (n=1,740)

集計項目	3時間以上	2～3時間未満	1～2時間未満	30分～1時間未満	30分未満
人数	15名	32名	157名	442名	1,094名
比率	0.9%	1.8%	9.0%	25.4%	62.9%

表 23 薬学部の学修時間集計結果 (n=2,886)

集計項目	3時間以上	2～3時間未満	1～2時間未満	30分～1時間未満	30分未満
人数	21名	106名	462名	860名	1,437名
比率	0.7%	3.7%	16.0%	29.8%	49.8%

表 24 大学教育センターの学修時間集計結果 (n=1,119)

集計項目	3時間以上	2～3時間未満	1～2時間未満	30分～1時間未満	30分未満
人数	21名	26名	98名	289名	685名
比率	1.9%	2.3%	8.8%	25.8%	61.2%

以上のように、全学平均を見ると、「30分未満」との回答が56.9%と最も多かった。一方で「1時間～2時間未満」以上の学修時間と回答した者は16.1%であった。今後、授業以外での学修時間を確保する方法として、シラバスに1～15回の单元ごとに予習と復習を記入することを義務化、平成27年度から導入するLMS(Learning Management System)を利用したデジタル化された教材や課題の配信とインターネット上での議論を活性化していく。また、学生の自己点検で予習・復習などの自己学習の項目が高く評価されている教員を抽出し、時間外の課題や授業展開に関してどのような工夫をしているかを聞き取り、FD活動として全教員へ情報提供していく予定である。

6. 授業担当教員の報告書

授業評価を受けた各教員より提出された報告書を次頁以下に添付する。

(ただし、ホームページでは省略)

以上